公立大学法人奈良県立医科大学

令和４年度及び中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間の業務の実績に関する評価結果

令和５年８月

奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会

目　次

１　評価の考え方・方法

２　令和４年度の業務の実績に関する評価

全体評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

項目別評価及び価値目標項目別評価
Ⅰ　地域貢献
教育　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６
研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９
診療　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
Ⅱ　教育　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５
Ⅲ　研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
Ⅳ　診療　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０
Ⅴ　法人運営　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４

３　第３期中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間の業務の実績に関する評価

全体評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２８

項目別評価及び価値目標項目別評価
Ⅰ　地域貢献
教育　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３２
研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３５
診療　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３８
Ⅱ　教育　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４１
Ⅲ　研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４４
Ⅳ　診療　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４７
Ⅴ　法人運営　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５１

１　評価の考え方・方法

公立大学法人奈良県立医科大学（以下「法人」という。）は、平成 19 年４月に公立大学法人化し、令和４年度は法人化 16 年目、第３期中期目標期間（令和元年度から６年度まで）の４年度目の評価に当たる。

第３期中期目標では、第２期中期目標の成果や課題をふまえて体系を見直し、「地域貢献」、「教育」、「研究」、「診療」、「法人運営」の５つの柱立てのもと価値目標を掲げ、それぞれに具体的な実現目標を定めている。

奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法第 78 条の２の規定により、法人の令和４年度の業務の実績及び第３期中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間の業務の実績について、「「公立大学法人奈良県立医科大学の各事業年度の業務の実績に関する評価に係る実施要領」及び「公立大学法人奈良県立医科大学の中期目標期間の終了時に見込まれる業務の実績に関する評価に係る実施要領」」（以下、「実施要領」という。）に基づき、評価を行った。なお、実施要領の概要は以下のとおりである。

（１）　令和４年度の業務の実績に関する評価について

①「全体評価」

全体評価は、価値目標項目別評価及び項目別評価を踏まえつつ、法人の中期計画の進捗状況全体について、記述式により評価を行う。

②「項目別評価」

価値目標項目別評価の結果を踏まえ、項目別に進捗状況・成果を次の５段階で評定する。

Ⅴ　中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある
Ⅳ　中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
Ⅲ　中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる
Ⅱ　中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている
Ⅰ　中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある

③「価値目標項目別評価」

業務実績等報告書の検証を踏まえ、価値目標項目別に進捗状況・成果を下記の５段階で評定する。

Ｓ　価値目標の達成に向けて特筆すべき進行状況にある
Ａ　価値目標の達成に向けて順調に進んでいる
Ｂ　価値目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる
Ｃ　価値目標の達成のためにはやや遅れている
Ｄ　価値目標の達成のためには重大な改善事項がある

なお、参考として６ページ以降の「価値目標項目別評価」において、新型コロナウイルス感染症による影響を考慮しない場合の評価を「評価」欄の評価結果の下に括弧書きで記載し、その要因を「＊」で記載した。

（２）　第３期中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間の実績に関する評価について

①「全体評価」

全体評価は、価値目標項目別評価及び項目別評価を踏まえつつ、法人の中期計画の進捗状況全体について、記述式により評価を行う。

②「項目別評価」

価値目標項目別評価の結果を踏まえ、項目別に進行状況・成果を次の５段階で評定する。

Ⅴ　中期目標の達成状況が極めて良好である
Ⅳ　中期目標の達成状況が良好である
Ⅲ　中期目標の達成状況が概ね良好である
Ⅱ　中期目標の達成状況がやや不十分である
Ⅰ　中期目標の達成状況が不十分である

③「価値目標項目別評価」

業務実績等報告書の検証を踏まえ、価値目標項目別に進捗状況・成果を下記の５段階で評定する。

Ｓ　価値目標の達成状況が極めて良好である
Ａ　価値目標の達成状況が良好である
Ｂ　価値目標の達成状況が概ね良好である
Ｃ　価値目標の達成状況がやや不十分である
Ｄ　価値目標の達成状況が不十分である

なお、参考として 32 ページ以降の「価値目標項目別評価」において、令和元年度～令和４年度の業務実績にかかる価値目標項目別評価の実績を記載している。令和元年度及び令和２年度については新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しない評価となっており、令和３年度及び令和４年度については新型コロナウイルス感染症のような中期目標策定後の情勢の変化等に伴う新しい事態が発生した場合に、その影響を考慮し評価結果により適切に反映できるよう、評価委員会が一部改正した実施要領により、新型コロナウイルス感染症による影響を考慮した評価となっている。

２　令和４年度の業務の実績に関する評価

全体評価

法人では、医師の偏在・散在の解消や看護師の質の向上、県民への研究成果の還元、地域の医療機関との連携の推進による救急医療体制の強化、医師と患者双方の視点を織り交ぜた実践的な教育、民間企業や他大学との共同研究、働き方改革などに取り組むとともに、中期計画の全ての項目について、定期的に進捗状況を把握し、進捗管理を行うなど、中期計画・年度計画実現のために意欲的に取り組んだ。

新型コロナウイルス感染症の影響により、現場での実習、国外での研修が十分に行えないなどの影響があったが、オンラインやシミュレータを活用するなど代替的な取組の実施により中期計画・年度計画実現に向け取り組んだ。また、新型コロナウイルス感染症対策では、重点医療機関として、多数の専用病床の確保や重症患者の受入など、県民を守る「最終ディフェンスライン」として多大な貢献をした。

令和4年度評価

令和４年度の業務の実績の中で評価できる取組として、以下の点などがあげられる。

◇ 医師派遣システムの浸透を図るため、病院長が交代した奈良県総合医療センター・大和高田市立病院・国保中央病院の新病院長に対しＷＥＢ形式で面談を実施した。また、病床機能や現状について把握するため、県内各関係病院のうち前回訪問から２年以上経過している奈良医療センター・奈良県総合リハビリテーションセンター・やまと精神医療センター・宇陀市立病院を訪問した。

◇ 特定行為研修を修了した看護師を増加させるため、特定行為研修を行い、急性期コース４名、在宅コース８名が研修を修了した。また、所属看護師への意向調査により、特定行為研修（急性期コース）受講志望者３名を発掘した。

◇ 県、市町村、医療保険者が実施する健康増進事業への協力・連携を行うとともに、県や市町村行政の健康長寿に関する施策のエビデンス構築を支援した。

◇ 研究成果の地域への還元及び情報発信を行うため、ＭＢＴ連携企業と共同で開発した抗ウイルスマスクの販売、ＭＢＴ映画祭開催などの難病克服キャンペーンを実施した。

◇ ＤＭＡＴ（※）隊員７名(医師１名、看護師４名、業務調整員２名)を育成することで、新たにＤＭＡＴ１チームを養成した。

（※）ＤＭＡＴ：Disaster Medical Assistance Team（災害派遣医療チーム）

◇ 各医療機関の連携を深めるため、県主催の奈良県糖尿病診療ネットワーク専門医協議会、同協議会に参画している病院の連携担当者向け連絡会議及び地域かかりつけ医ミーティングに参加し、糖尿病患者に対する地域医療ネットワークの必要性に関する講演、かかりつけ医との間での患者の紹介・逆紹介の推進、実施状況の把握等の情報共有・意見交換を行った。

◇ 基礎医学教育の専門科目及び統合臨床講義の全科目に反転授業（※）を導入した。反転授業を導入した多くの科目で授業時に小テストを行い、解答を学生に発表させ、正解の発表や解説を行う授業を実施した。

（※）反転授業：従来の「授業」と「予習･復習」の位置づけを反転させ、自宅学習として予習を行い、授業では予習した知識・理解の確認や議論などを行う授業

◇ 令和３年度に事業計画が選定された文部科学省「感染症医療人材養成事業」により整備したシミュレータを臨床実習等で引き続き活用し、事業計画を実行した。

◇ 総合研究棟の運用体制の検討、科研費申請支援事業に加え、研究計画の立案や外部資金の獲得を専門的に支援するため、科研費申請書の添削や看護学科の教員を対象とした科研費獲得セミ

ナー等を開始した。また、研究者の研究補助員として専門技術職員１名を新たに配置（計３名）するなど人材面の支援体制を強化した。

◇ 奈良先端科学技術大学院大学との横断的共同研究を推進するため、両法人の関係者で連携推進方策や連携活動等を議論するとともに、共同研究助成事業および研究成果発表会を実施した。また、両法人の更なる連携活性化を進めるため、共同研究組織「連携活性化推進室」を設置した。

◇ 肝炎ウイルス検査受診率の向上のため、肝炎医療コーディネーター養成研修会を対面とＷＥＢのハイブリッド形式で開催し、59 人の肝炎医療コーディネーターを認定した。

◇ 臨床指標を通じて医療の質の向上を図るため、医療・教育質向上対策プロジェクト会議を開催し、肺血栓塞栓症予防対策実施率、褥瘡発生率、後発医薬品使用率（外来）を令和４年度の重点取組項目として決定。進捗状況のモニタリング等を実施し、各種会議等において報告を行った。

◇ 患者満足度の一層の向上に向け、患者ニーズの把握及び職員の意識改善を図るため、調査を実施し、外来・入院ともに目標値を達成した。また、患者満足度調査及び声のポスト等の意見を基に、患者の利便性向上、患者サービスの向上のための施設の改修、運用の見直し等を実施した。

◇ ホスピタリティマインド醸成研修をｅラーニング配信及びＤＶＤ貸出により実施した。研修テーマについては過年度のアンケート結果を踏まえて、分かりやすく実践的な内容になるよう、事例や研修の内容を検討して、「バイスティックの７原則を用いてホスピタリティマインドのさらなる醸成を図る」とした。

◇ 安全な医療体制の確立のため、奈良県医療安全推進センターに対して、附属病院における取組事例や安全対策を中心に、４件の患者安全対策を提案した。また、医療安全管理体制を強化するため、医療安全管理研修を計画的に実施し、職員の安全意識や知識の向上を図った。

◇ 持続可能な安定した経営基盤確立のため、令和３年度決算状況についての動画を教職員へ一斉メールすることにより、法人内に周知し情報共有した。加えて、令和３年度との比較分析等も含めた令和４年度決算見通しを役員会で議論した。

◇ 働きやすい職場環境を整備するため、年次有給休暇の取得状況を運営協議会等で公表した。また、年次有給休暇及び夏季休暇の取得促進通知を発出するとともに、取得単位の拡大や学内ホームページ上での取得の周知等、取得促進の働きかけを行った。

一方、課題について、以下の点などがあげられる。

◆ 大学院修士課程における専門看護師課程を２人が修了したものの、専門看護師数は第３期期間累計１人にとどまり、目標（第３期期間累計２人）に達していない。

◆ 新型コロナウイルス感染症第７波及び第８波の感染者数急増に伴い、高度救命救急センターを常に満床に近い状態で運用せざるを得なかったこと、クラスター発生等により周辺医療機関の病棟が閉鎖され、他院の救急受け入れ及び他院への転院が不可となる事例が多々発生したことにより、救急患者の受入が困難な状況に陥ったことがあった。このため、「中南和地域における重症以上の傷病者搬送事案において医療機関に受入の照会を行った回数４回以上の割合」及び「救急隊からの受入照会に対する受入率」の指標が低下した。

◆ 認定看護師の資格取得者は、第３期期間累計７人となったが、新型コロナウイルス感染症の影響により受講可能な教育機関が減少したため、目標（第３期期間累計 11 人）に達していない。

以上のほか、新型コロナウイルス感染症の動向に対応した取組として、以下の点などがあげられる。

○ **診療（附属病院）における対応：**

県の要請を受け、新型コロナウイルス感染症受入専用病床を県内の感染者数等の状況に応じて、最大 80 床（うち重症病床は最大 14 床）を確保した。

また、上記受入体制を確保するため、一般病床の運用や手術枠を縮小し、入院患者の受入を抑制（最大 60%まで病床運用を抑制）するとともに、逆紹介や電話診療を推進した。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染者数が急増した時期には、高度救命救急センターを常に満床に近い状態で運用せざるを得なかったこと、クラスター発生等により周辺医療機関の病棟が閉鎖され、他院の救急受け入れ及び他院への転院が不可となる事例が多々発生したことにより、救急患者の受入困難な状況に陥るなどの影響が生じた。ただ、このような状況にあっても、地域の医療機関と連携すること等により、附属病院でしか対応できない高度医療や悪性腫瘍、急を要する患者についてはこれまでどおりの対応を行った。また、新型コロナウイルス感染症陽性妊婦の治療については、他府県や他院への搬送を行うことなく自院で完結した。

その他、新型コロナウイルス感染症拡大に対する患者の不安を軽減させるための取組を引き続き実施した。

○ **研究部門における取組：**

ＭＢＴ連携企業と法人が共同で開発した抗ウイルスマスクが、附属病院内のコンビニエンスストアでも販売開始された。また、新型コロナウイルス感染症の影響により中断していた若手研究者国際学会発表助成事業を再開した。

○ **教育部門における取組：**

新型コロナウイルス感染症の影響で、保健所実習、県・市町村合同の保健師採用説明会等が中止になる一方で、令和２年度及び令和３年度は遠隔で実施していた医看合同の病院見学を対面で実施し、県内医療機関に対する意識を涵養した。また、海外へのリサーチ・クラークシップ派遣は中止したものの、国内の学外実習施設へ学生を派遣し、研究マインドの育成を図った。

これらの取組を含めて、公立大学法人奈良県立医科大学の令和４年度の業務実績について、「実施要領」に基づき評価した結果、中期目標で掲げる７項目について、下表のとおり評定した。

項目	評価	内容
Ⅰ. 地域貢献〈教育〉	Ⅳ	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
Ⅰ. 地域貢献〈研究〉	Ⅴ	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある
Ⅰ. 地域貢献〈診療〉	Ⅳ	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
Ⅱ. 教育	Ⅲ	中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる
Ⅲ. 研究	Ⅴ	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある
Ⅳ. 診療	Ⅳ	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
Ⅴ. 法人運営	Ⅳ	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

以上のことを踏まえ、公立大学法人奈良県立医科大学の令和４年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に関して、全体として順調に進んでいると認められる。

項目別評価及び価値目標項目別評価

Ⅰ. 地域貢献〈教育〉

1. 医師・看護師・保健師の県内定着　2. 医師の偏在・散在の解消　3. 看護師の質の向上

【項目別評価】

目標項目	地域に貢献する医療人の確保と質の向上	
評価	Ⅳ	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

【価値目標項目別評価】

価値目標項目			評価
1	医師・看護師・保健師の県内定着	・県内で質の高い医療を効率的に提供する体制を構築するため、医師を養成・確保 ・県内の看護師等学校養成所を卒業して県外で就業した者が、県外の看護師等学校養成所を卒業して県内で就業する者を上回っている中、地域医療体制を支える看護師を確保 ・健康寿命日本一を目指す上で、保健指導の中心的役割を果たす保健師を確保	B
2	医師の偏在・散在の解消	奈良県の医師数は全国平均を上回ったが、診療科では全国平均を下回る科もある（偏在）ことや、中規模病院が多く、病院当たりの医師数が少ないこと（散在）の是正が必要	A
3	看護師の質の向上	看護職員の役割が拡大する中、専門的な知識と技術に裏付けられた高い看護水準を担保するため、専門看護師や特定行為研修修了者等、高いスキルを持つ看護職員を養成。また、住み慣れた自宅での療養ニーズに対応するため、訪問看護師の質を向上	A

評価できる取組

価値目標2

「医師の偏在・散在の解消」

中期計画

「県及び各関係機関との連携のもと、県費奨学生のキャリアパス形成を支援し、地域医療に貢献する医師を育成するとともに地域の医療機関からの派遣要請等を精査し、適正な医師派遣を実施」

令和４年度計画

・適正な医師派遣を図るため、学内各医局と県内各関係病院の関係者と協議を行い、現状と実態、課題を把握する。
・県費奨学生のキャリア形成を支援するため、各奨学生に個別面談するとともに、奨学生同士や先輩医師からの情報を得られる機会を設定する。
・県費奨学生自身の理解が深まることによって離脱も防げることから、新入生説明会、奨学生総会などの保護者も参加できるイベントの実施や、定期的な機関誌発行によって、制度の主旨、運用の情報提供を行う。
・県の構想及び計画に協調するため、県担当課と連絡を密にして、情報共有に努める。

令和４年度取組

◇ 医師派遣システムの浸透を図るため、病院長が交代した奈良県総合医療センター・大和高田市立病院・国保中央病院の新病院長に対しＷＥＢ形式で面談を実施した。また、病床機能や現状について把握するため、県内各関係病院のうち前回訪問から２年以上経過している奈良医療センター・奈良県総合リハビリテーションセンター・やまと精神医療センター・宇陀市立病院を訪問した。

価値目標3

「看護師の質の向上」

中期計画

「特定行為研修を修了した看護師・専門看護師を増やすとともに、看護職員の教育・研修プログラムを充実させることにより地域の看護師の能力を向上」

令和４年度計画

・特定行為研修や専門看護師の資格取得者を増加させるため、意向調査や情報提供を行う。

・特定行為に関するアンケート結果を踏まえ、職員への周知と活動を促すための計画を検討する。

令和４年度取組

◇ 特定行為研修を修了した看護師を増加させるため、特定行為研修を行い、急性期コース４名、在宅コース８名が研修を修了した。また、所属看護師への意向調査により、特定行為研修（急性期コース）受講志望者３名を発掘した。

◇ 特定行為研修修了者の認知度とニーズ把握を目的にした附属病院職員に対するアンケートの調査結果について、特定看護師業務管理委員会・リソースナースセンター会議において情報共有するとともに、職員への周知方法を検討した。

課題

中期計画

「特定行為研修を修了した看護師・専門看護師を増やすとともに、看護職員の教育・研修プログラムを充実させることにより地域の看護師の能力を向上」

令和４年度計画

・特定行為研修や専門看護師の資格取得者を増加させるため、意向調査や情報提供を行う。

令和４年度取組

◇ 専門看護師の資格取得者を増加させるため、所属看護師への意向調査により専門看護師取得志望者２名を発掘した。

◆大学院修士課程における専門看護師課程を２人が修了したものの、専門看護師数は第３期期間累計１人にとどまり、目標（第３期期間累計２人）に達していない。

（参考）【実現目標の実績について】　※数値目標のみ抜粋

１．医師・看護師・保健師の県内定着

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
県内で臨床研修を行う医大卒医の県内基幹病院における専攻医登録率の確保	85．5%（R1～R4平均） （単年度実績:91．7%）	第3期期間平均　80%

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
医学科卒業生の県内就業率の確保	56．7%（R1～R4平均） （単年度実績:45%）	第3期期間平均　60%

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
看護学科卒業生の県内就業率の確保	67．2%（R1～R4平均） （単年度実績：63．4%）	第3期期間平均　65%

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
看護学科卒業生の保健師県内就業者数の増加	4．8人（R1～R4平均） （単年度実績：6人）	第3期期間平均　6人

２．医師の偏在・散在の解消

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
県立医大医師派遣センター等を通じた地域の医療機関への配置医師数の増加	44人※	36人※
※Ｒ１～Ｒ４累計		

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
医師が不足するへき地や診療科、診療分野に従事する医師数の増加	92人※	88人※
※Ｒ１～Ｒ４累計		

３．看護師の質の向上

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
特定行為研修（急性期コース）を修了した看護師数の増加	20人※ （単年度実績：4人）	12人※
※Ｒ１～Ｒ４累計		

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
専門看護師数の増加	1人※ （単年度実績：0人） *大学院修了2名	2人※
※Ｒ１～Ｒ４累計		

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
特定行為研修（在宅コース）を修了した看護師数の増加	30人※ （単年度実績：8人）	24人※
※Ｒ１～Ｒ４累計		

項目別評価及び価値目標項目別評価

Ⅰ．地域貢献〈研究〉
　４．地域に根ざし地域と歩む研究の推進

【項目別評価】

目標項目	県民の健康増進への貢献	
評価	V	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある

【価値目標項目別評価】

価値目標項目			評価
4	地域に根ざし地域と歩む研究の推進	奈良県の医療・保健・福祉に関する諸課題を解決するため、県と連携して研究に取り組み、その成果を県民に還元	S

評価できる取組

価値目標４
「地域に根ざし地域と歩む研究の推進」
中期計画
「市町村や県が実施する健康増進事業への協力・連携及び実践的研究を実施」

令和４年度計画
・市町村や県が実施する健康増進事業への協力・連携及び実践的研究を実施するため、支援依頼を受けた事例について、可能な限り統計手法を用いた分析や健康関連データの可視化を行い、エビデンスに基づいた施策作りを支援する。

令和４年度取組
◇県、市町村、医療保険者が実施する下記の健康増進事業への協力・連携を行った。
・後期高齢者の歯科検診の有効性評価に関する受託研究（後期高齢者医療広域連合）
・介護保険意向調査（香芝市との共同研究）
・健康増進計画におけるロジックモデルの作成支援（葛城市、黒滝村）
・ＡＩを使った高齢者支援事業の評価（県地域包括ケア推進室）
・学会発表支援（全国健康保険協会奈良県支部）

◇ 県医療保険課から提供を受けた県内の市町村国保・後期高齢者医療の保健・医療・介護データ（健康関連データ）の見える化や要因分析を行い、県や市町村行政の健康長寿に関する施策（健康増進計画・食育推進計画・地域福祉計画等）のエビデンス構築を支援した。

◇ 香芝市との共同研究や公的統計を用いた研究など、健康長寿に関する施策のエビデンス構築を支援する実践的研究を行い、論文発表２本、学会発表３本を実施するとともに、プレスリリース（「保健師数と COVID-19 罹患率についての都道府県別生態学的研究」新聞記事掲載 19 社、ＷＥＢ版公開 10 社、インタビュー取材３社、奈良テレビの放映）を行った。

中期計画

「健康寿命延伸や医学を基礎とするまちづくり研究等を進展」

令和４年度計画

・重点研究課題である健康寿命延伸のためのコホート研究（※1）の定期的な進捗管理を行う。

・重点研究課題であるＭＢＴ（※2）研究に関する諸事業を多種多様な企業等と推進し、研究成果の地域への還元及び情報発信を行う。

（※1）健康寿命延伸のためのコホート研究：県下全域の多数の住民を対象として、県民の健康長寿を維持させる要因を多方面から調査、分析する研究

（※2）ＭＢＴ：Medicine-Based Town〈医学を基礎とするまちづくり〉

令和４年度取組

◇ 研究推進戦略本部会議において重点研究課題であるコホート研究の進捗管理報告を行った。

◇ 下記のとおりＭＢＴ研究に関する諸事業を実施した。

＜企業及び自治体等と連携した積極的な事業の推進＞

・ＭＢＴ連携企業である株式会社三笠（各種靴下企画製造販売 等）と法人リハビリテーション講座が共同でパーキンソン病患者の手指筋力改善を図る手指機能強化手袋を開発し、各メディアに取り上げられた。

・ＭＢＴ連携企業であるやまと真空工業株式会社（真空蒸着加工事業等）と法人微生物感染症学が共同で開発した抗ウイルスマスクが、附属病院内のコンビニエンスストアで販売開始された。

・ＭＢＴに係る研究成果を具現化するベンチャー企業を２社設立した。（大学発ベンチャー企業合計６社）

・県主催の医大・周辺まちづくり検討会に参加し、ＭＢＴ構想の提言を行った。

・イノベーションストリーム KANSAI に参加し、２件のＭＢＴ研究開発活動成果を展示した。

・法人およびＭＢＴコンソーシアムと「よい仕事おこしフェア実行委員会」が相互に協力し、医学知識を基に地域の活性化と産業の振興を図るため、包括的な連携・協力体制を構築するための協定を締結した。

＜学内外へのＭＢＴ研究成果の情報発信及び地域への還元＞

・日本経済団体連合会、ＭＢＴコンソーシアムおよび本学が共催で「地域協創アクションプログラムＷＥＢセミナー」を開催し、経団連会員等にＭＢＴの活動事例を紹介した。

・各ＭＢＴ特命教員が医大学生に特別講義を実施し、YouTube で全国に発信した。

・ＭＢＴ活動の一環として医大学生が近隣薬局店で「ＭＢＴカフェ」をオープンした。

・近隣薬局店で「ＭＢＴ健康ステーション」を開催し、近隣住民に研究成果を還元した。

・橿原運動公園で実施された奈良県防災総合訓練において、防災に有効な新しいインフラ案としてＭＢＴ研究成果を展示した。

・第 48 回技術士全国大会や「HANAZONO EXPO」で活動事例紹介や研究成果展示を行った。

＜ＭＢＴ難病克服キャンペーンの取組＞

・キャンペーンの周知及び協賛企業の募集を新聞広告により実施した。

・ＭＢＴ映画祭等の告知を都営地下鉄のつり革広告により実施した。

・ＭＢＴ映画祭映像作品の募集および募集に先立ち記者会見を実施した。

・第３回難病克服支援ＷＥＢセミナーを開催した。

・令和３年度のＭＢＴ映画祭作品コンテンツによる上映会を「うめきた外庭 SQUARE」で実施した。

・第２回ＭＢＴ映画祭を東京有楽町朝日ホールにて開催した。

・第４回難病克服支援ＷＥＢセミナーを開催した。

（参考）【実現目標の実績について】　※数値目標のみ抜粋

４．地域に根ざし地域と歩む研究の推進

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
県民健康増進支援センターによる県・市町村及び民間医療機関等の支援の新規件数（累計）の増加	58件※ （単年度実績：7件）	40件※
※Ｒ１～Ｒ４累計		

項目別評価及び価値目標項目別評価

Ⅰ. 地域貢献〈診療〉
5. 県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践　6. 病病連携・病診連携の推進
7. 各領域の担い手となる医療人の育成

【項目別評価】

目標項目	地域医療機関との連携・機能分担の推進	
評価	Ⅳ	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

【価値目標項目別評価】

価値目標項目			評価
5	県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践	救急医療体制を強化するとともに、奈良県基幹災害拠点病院として、県民を守り地域の安心の確保に貢献	A＊（B）
6	病病連携・病診連携の推進	地域の医療機関との適切な機能分担と緊密な連携を推進し、地域医療を支える	A
7	各領域の担い手となる医療人の育成	質の高い医療を実践できる優秀な医師を確保し、県民が県内で高度な医療が受けられ、地域医療が充実する臨床研究支援体制を確立	B

＊新型コロナウイルス感染症第７波及び第８波の感染者数急増に伴い、高度救命救急センターを常に満床に近い状態で運用せざるを得なかったこと、クラスター発生等により周辺医療機関の病棟が閉鎖され、他院の救急受け入れ及び他院への転院が不可となる事例が多々発生したことにより、救急患者の受入が困難な状況が発生した。このため、「中南和地域における重症以上の傷病者搬送事案において医療機関に受入の照会を行った回数４回以上の割合」及び「救急隊からの受入照会に対する受入率」の指標が低下したことを考慮した。

評価できる取組

価値目標5
「県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践」
中期計画
「県内医療機関との連携強化と機能分担を推進し、基幹災害拠点病院としての取り組みを実施」

令和４年度計画
・ＤＭＡＴチームを増加させるため、新たな隊員を養成する。
令和４年度取組
◇ ＤＭＡＴ隊員７名（医師１名、看護師４名、業務調整員２名）を育成することで、新たにＤＭＡＴ１チームの養成を行った。

価値目標6
「病病連携・病診連携の推進」
中期計画
「糖尿病については、糖尿病学講座を中核に人材の養成と糖尿病診療ネットワークを通じた紹介・逆紹介の支援を実施」

令和４年度計画

・糖尿病診療ネットワークを通じて、現状を把握するとともに、医療機関間の連携を深める。

令和４年度取組

◇ 各医療機関の連携を深めるため、県主催の奈良県糖尿病診療ネットワーク専門医協議会、同協議会に参画している病院の連携担当者向け連絡会議及び地域かかりつけ医ミーティングに参加し、糖尿病患者に対する地域医療ネットワークの必要性に関する講演、かかりつけ医との間での患者の紹介・逆紹介の推進、実施状況の把握等の情報共有・意見交換を行った。

課題

中期計画

「県内の救急医療に関する諸機関との連携体制の下、重篤な救急患者の受け入れを中心に、県民を守る「最終ディフェンスライン」としての取り組みを実施」

令和４年度計画

・ｅ－ＭＡＴＣＨ（※1）を活用した救急コーディネーター事業（※2）の確立のため県と協議し、救急隊からの受入照会に対する受入率の向上を図る。

（※1）ｅ－ＭＡＴＣＨ：奈良県における救急医療管制システム

（※2）救急コーディネーター事業：消防機関と病院が連携を強化し、症状、緊急度、重症度に応じた適切な病院選定･搬送をより迅速に行うための取組

令和４年度取組

◇ ｅ－ＭＡＴＣＨを活用した救急コーディネーター事業の確立について、県、消防、附属病院医師参画の救急搬送及び医療連携協議会で、より効率的なｅ－ＭＡＴＣＨの運用方法について検討した。

◆ 新型コロナウイルス感染症第７波及び第８波の感染者数急増に伴い、高度救命救急センターを常に満床に近い状態で運用せざるを得なかったこと、クラスター発生等により周辺医療機関の病棟が閉鎖され、他院の救急受け入れ及び他院への転院が不可となる事例が多々発生したことにより、救急患者の受入が困難な状況に陥ったことがあった。このため、「中南和地域における重症以上の傷病者搬送事案において医療機関に受入の照会を行った回数４回以上の割合」及び「救急隊からの受入照会に対する受入率」の指標が低下した。

（参考）【実現目標の実績について】　※数値目標のみ抜粋

５．県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
中南和地域における重症以上の傷病者搬送事案において医療機関に受入の照会を行った回数4回以上の割合の低下	7．36%	4．2%

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
救急隊からの受入照会に対する受入率の向上※	85．1%	100%
※　高度救命救急センター		

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
新生児県内受入率及びハイリスク妊婦の県内受入率の向上	新生児　100% ハイリスク妊婦　96．9%	新生児　100% ハイリスク妊婦　100%

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
災害医療を支えるDMATチームの育成	4チーム※ （単年度実績：1チーム）	1チーム※
※Ｒ１～Ｒ４累計		

６．病病連携・病診連携の推進

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
高い紹介率の維持	95．8%	93%以上

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
高い逆紹介率の維持	93．0%	82%以上

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
糖尿病専門医養成数の増加	4人※ （単年度実績：1人）	4人※
※Ｒ１～Ｒ４累計		

項目別評価及び価値目標項目別評価

Ⅱ. 教育
8.「心の教育」を軸とした「良き医療人」の育成
9. 教員の教育能力開発と教育全般に関する 360 度評価　10. 学生への支援の推進
11. 学習環境と教育環境の充実

【項目別評価】

目標項目	最高の医学と最善の医療を行う「良き医療人」の育成	
評価	Ⅲ	中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

【価値目標項目別評価】

価値目標項目			評価
8	「心の教育」を軸とした「良き医療人」の育成	・知識・技能はもとより、豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と暖かい心で積極的に交流する医療人の育成 ・臨床実習を強化し、患者安全に関する基本教育、医療者になる自覚の強化、参加型臨床実習への円滑な移行による臨床マインドの育成	A
9	教員の教育能力開発と教育全般に関する360度評価※	魅力ある教育を実現するため、学生の参加を推進するとともに、教員の教育能力を向上	B
10	学生への支援の推進	教員・学生間対話を拡大し、学生全体対話の他、個別面談やカウンセリング等の個別対話を拡大	B
11	学習環境と教育環境の充実	豊かな知識と優れた技能、地域貢献の気概を持った国際水準の医療人を育成するために、学習環境と教育環境を改善	B

※３６０度評価：学生や評価機構など、立場が異なる複数の評価者が評価する手法・多面評価

評価できる取組

価値目標8
「「心の教育」を軸とした「良き医療人」の育成」
中期計画
「医学科においては「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「医学教育分野別認証評価」、看護学科においては「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」及び「看護学教育分野別認証評価」に則した専門教育を実施」
「地域基盤型医療教育カリキュラム及び臨床マインド育成カリキュラム並びに看護に係る臨床実習を最適化」

令和４年度計画

・モデル・コア・カリキュラム（※）及び外部評価に則した専門教育を実施し、学生の学習能力到達度を評価する。

（※）モデル・コア・カリキュラム：各大学が策定するカリキュラムのうち、全大学で共通して取り組むべき「コア」の部分を抽出し、「モデル」として体系的に整理したもの

・臨床での実践的能力を向上させるため、シミュレーション教育を推進する。

・良き医療人育成プログラムをより体系立てたプログラムとするため、６年一貫教育授業科目についてもモデル・コア・カリキュラムの網羅状況を調査する。

・臨床実習における学生の経験内容も踏まえた教育成果目標(アウトカム)評価を引き続き実施する。

令和4年度取組

◇ 学生の学習能力到達状況の形成的評価（※）を実施するため、５年次に総合問題形式による「臨床医学知識到達度評価試験」を、３年次に総合問題形式による「基礎医学知識到達度評価試験」を導入した。

（※）形成的評価：学習者の教育課程途中における学習成果や教育目標の達成状況を把握し、その後の学習を促すために行う評価

◇ 基礎医学教育の専門科目及び統合臨床講義の全科目に反転授業を導入した。反転授業を導入した多くの科目で授業時に小テストを行い、解答を学生に発表させ、正解の発表や解説を行う授業を実施した。

◇ 令和３年度に事業計画が選定された文部科学省「感染症医療人材養成事業」により整備したシミュレータを臨床実習等で引き続き活用し、事業計画を実行した。

◇ 良き医療人育成プログラムの授業科目についてもモデル・コア・カリキュラムの適合状況を調査し、すべての科目のシラバスに該当するモデル・コア・カリキュラムの番号を明記した。

（参考）【実現目標の実績について】　※数値目標のみ抜粋

８．「心の教育」を軸とした「良き医療人」の育成

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
医師・看護師・保健師・助産師の現役卒業生の国家試験合格率の向上	（医師）　3位 （看護師）　100% （保健師）　100% （助産師）　100%	（医師）国公立大学トップ10 （看護師）　100% （保健師）　100% （助産師）　100%

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
「良き医療人」育成にかかる教養・基礎・臨床・看護各分野におけるカリキュラムの最適化 ① CBT※1合格率の向上 ② Post－CC　OSCE※2合格率の維持 ③ 看護技術項目到達度チェックリストの到達度平均の向上	①　99．1% ②　100% ③　平均77．3%	①　94．2% ②　100% ③　平均90%以上

※１　ＣＢＴ（Computer Based Testing）：臨床実習開始前（4年生時）に実施する共用試験

※２　Post-CC OSCE（OSCE:Objective Structured Clinical Examination）：臨床実習終了後（6年生時）に実施する客観的臨床能力試験

項目別評価及び価値目標項目別評価

Ⅲ. 研究

12. 最善の医療に貢献する最先端の研究の実施　13. 横連携・他分野連携の推進

14. 研究推進体制の適正化と強化

【項目別評価】

目標項目	最善の医療に貢献する最先端の研究の実施	
評価	V	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある

【価値目標項目別評価】

価値目標項目			評価
12	最善の医療に貢献する最先端の研究の実施	研究の成果を患者の最善の医療に活かし、県民の健康増進を図るとともに、最先端の研究の実施により医学の進歩に貢献	S
13	横連携・他分野連携の推進	講座、領域単位の専門分野の研究に加え、枠組みを超えて連携した研究を推進	S
14	研究推進体制の適正化と強化	若手研究者や女性研究者の育成や研究推進体制の強化による研究の促進	A

評価できる取組

価値目標12

「最善の医療に貢献する最先端の研究の実施」

中期計画

「研究総合力を増強」「がん、脳卒中、心筋梗塞等に貢献する重点研究を推進」

「臨床研究の支援体制を強化」

令和４年度計画

・大学の研究総合力の充実のため、一層の研究力向上を具現化する諸施策を進める。

・重点研究課題である血栓止血の制御に関する研究及び画像下での低侵襲医療に関する研究について、定期的に進捗管理を行う。

・研究に関する支援を行うため、臨床研究の研究倫理講習会等を開催する。

令和４年度取組

◇ 総合研究棟の運用体制の検討、科研費申請支援事業に加え、研究計画の立案や外部資金の獲得を専門的に支援するため、科研費申請書の添削や看護学科の教員を対象とした科研費獲得セミナー等を開始した。また、研究者の研究補助員として専門技術職員１名を新たに配置（計３名）するなど人材面の支援体制を強化した。

◇ 臨床研究セミナー（基礎編、実践編）を開催し、学外研究者の受講も含めて 1,367 名が参加した。

価値目標13
「横連携・他分野連携の推進」
中期計画
「横断的共同研究の取り組みを推進」「産学官連携、研究支援機能の強化と大学共同研究機能を充実」「研究者情報データベース活用等による研究業績を見える化」

令和４年度計画
・学内の共同研究や他機関との共同研究を進めるため、横断的共同研究の助成を行い共同研究の活性化を図る。
・リサーチアドミニストレーター（※1）による研究支援及び大学共同研究施設の充実を図るとともに、研究シーズの発信により産学官連携を推進する。
・リサーチマップ（※2）等を活用し、本学研究者の業績データを更新・蓄積する。
（※1）リサーチアドミニストレーター：研究活動を効果的・効率的に進めていくために、プロジェクトの企画・運営、知的財産の管理・運用等の研究支援業務を行う人材
（※2）リサーチマップ：研究者が業績を管理・発信できることを目的としたデータベースサービス

令和４年度取組
◇ 奈良先端科学技術大学院大学との横断的共同研究を推進するため、両法人の関係者で連携推進方策や連携活動等を議論するともに、共同研究助成事業および研究成果発表会を実施した。また、両法人の更なる連携活性化を進めるため、共同研究組織「連携活性化推進室」を設置した。
◇ 横断的共同研究の助成を行い、共同研究の活性化を継続したことにより、採用件数を上回る６件の応募があり、助成対象者１名を決定し、支援した。
◇ 産学官連携を推進するため、学内の研究シーズをとりまとめた冊子を企業等に送付するとともに、随時企業からのニーズを学内に周知した。

（参考）【実現目標の実績について】　※数値目標のみ抜粋

12．最善の医療に貢献する最先端の研究の実施

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
PubMed※1対象の英文学術論文数（累計）の増加	３，094件※2 （単年度実績：873件）	１，600件※2
※1　PubMed：アメリカ国立医学図書館内の国立生物科学情報センター（ＮＣＢＩ）が運営する医学・生物学分野の学術論文検索サービス ※2　Ｒ１～Ｒ４累計		

13．横連携・他分野連携の推進

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
民間企業や他学部との共同研究件数（累計）の増加	184件※ （単年度実績：41件）	135件※
※Ｒ１～Ｒ４累計		

14．研究推進体制の適正化と強化

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
研究推進体制の適正化と強化の推進 ① 文部科学省科研費採択件数（新規＋継続）の増加 ② 研究活動不正防止研修受講者数（累計）の増加	①　259件※ ②　１，904件※ （単年度実績：225人）	①　210件※ ②　１，500件※
※Ｒ１～Ｒ４累計		

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
若手研究者・女性研究者の支援 ①　若手研究採択件数（新規＋継続）の増加 ②　女性研究者数（医学科女性教員割合）の増加	①　84件 ②　19．1％	①　48件 ②　19．0％

項目別評価及び価値目標項目別評価

Ⅳ. 診療

15. 県内基幹病院としての機能の充実　16. 患者満足の一層の向上

17. 安全な医療体制の確立

【項目別評価】

目標項目	安全で安心できる最善の医療の提供	
評価	Ⅳ	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

【価値目標項目別評価】

価値目標項目			評価
15	県内基幹病院としての機能の充実	・県内唯一の特定機能病院として、高度医療・先端医療を推進 ・県中南部の拠点となる高度医療拠点病院としての役割を担うための診療、人材及び機能の充実	A＊ （B）
16	患者満足の一層の向上	医療人のホスピタリティマインド醸成や患者の意見及び要望を適切に反映することにより、患者の診療に対する満足度を維持	A
17	安全な医療体制の確立	県内医療機関による安全で透明性が高く、県民から信頼される医療の提供	A

＊認定看護師数について、新型コロナウイルス感染症の影響により受講可能な教育機関が減少したため、目標を達成できなかったが、専門性の高いスキルを有する看護師（特定行為研修修了者、認定看護管理者を含めた人数）は着実に増加していること等を考慮した。

評価できる取組

価値目標 15

「県内基幹病院としての機能の充実」

中期計画

「肝炎医療コーディネーターを養成」

令和４年度計画

・全国的に下位にある本県の肝炎ウイルス検査受診率の向上と肝炎ウイルス検査陽性者に対する専門医療機関への受診勧奨のため、県民への啓発に直接携わる肝炎医療コーディネーターを県内で広く養成する。

令和４年度取組

◇ 肝炎ウイルス検査受診率の向上のため、肝炎医療コーディネーター養成研修会を対面とＷＥＢのハイブリッド形式で開催し、59 人の肝炎医療コーディネーターを認定した。

中期計画

「県内基幹病院として求められる機能を発揮するため、臨床指標を通じた医療の質の向上、熟練した技術と知識を有する人材の養成及び将来の医療ニーズを踏まえた病院施設整備の取り組みを推進」

令和４年度計画

・臨床指標について、他院とのベンチマーク比較を実施し、課題の抽出及び要改善項目の設定を行い、ＱＩ（Quality Indicator（質の指標）及びQuality Improvement（質の向上））活動の継続実施等により改善活動を行う。

令和４年度取組

◇ 臨床指標を通じて医療の質の向上を図るため、医療・教育質向上対策プロジェクト会議を開催し、肺血栓塞栓症予防対策実施率、褥瘡発生率、後発医薬品使用率（外来）を重点取組項目として決定。進捗状況のモニタリング等を実施し、各種会議等において報告を行った。

価値目標 16

「患者満足の一層の向上」

中期計画

「患者ニーズの把握及び職員の意識改善に努め、提供する医療の質を向上」

令和４年度計画

・必要に応じてアンケート項目の追加・見直しを行いつつ、回収率の一層の向上に努め、患者満足度調査を継続することで、病院に対する患者の評価・ニーズを把握のうえ、改善策を検討する。

・受講者アンケートの結果等を踏まえ、研修内容を検証することで効果的なホスピタリティマインド醸成研修会を開催する。

令和４年度取組

◇ 患者満足度の一層の向上に向け、患者ニーズの把握及び職員の意識改善を図るため、調査を実施し、外来・入院ともに目標値を達成した。また、患者満足度調査及び声のポスト等の意見を基に、患者の利便性向上、患者サービスの向上のための施設の改修、運用の見直し等を実施した。

◇ ホスピタリティマインド醸成研修をｅラーニング配信及びＤＶＤ貸出により実施した。研修テーマについては過年度のアンケート結果を踏まえて、分かりやすく実践的な内容になるよう、事例や研修の内容を検討して、「バイスティックの７原則を用いてホスピタリティマインドのさらなる醸成を図る」とした。

価値目標 17

「安全な医療体制の確立」

中期計画

「医療安全を病院管理の最も重要な課題と認識し、全職員が患者の安全を最優先に考えて行動できるよう、医療安全管理体制をさらに強化」

「患者の意思を尊重しながら、十分なインフォームドコンセントを行い、患者及び家族と協同した治療を推進」

令和４年度計画

・医療安全管理体制を強化するため、医療安全管理研修の計画的な開催、インシデント・アクシデント報告制度を活用した原因分析及び再発防止策の立案、並びに安全管理に関する情報発信を行う。

・患者及び家族と協同した治療を推進するため、インフォームドコンセントの方針に基づく適切な説明・同意の実施に取り組む。

・奈良県医療安全推進センターへ、患者安全対策を３件以上提案する。

令和４年度取組

◇ 安全な医療体制の確立のため、奈良県医療安全推進センターに対して、附属病院における取組事例や安全対策を中心に、４件の患者安全対策を提案した。また、医療安全管理体制を強化するため、医療安全管理研修を計画的に実施し、職員の安全意識や知識の向上を図った。

課題

中期計画

「県内基幹病院として求められる機能を発揮するため、臨床指標を通じた医療の質の向上、熟練した技術と知識を有する人材の養成及び将来の医療ニーズを踏まえた病院施設整備の取り組みを推進」

令和４年度計画

・認定看護師の資格取得者を増加させるため、意向調査や情報提供、体験型研修を行うとともに、育成支援のあり方を検討する。

令和４年度取組

◇ 認定看護師の資格取得者を増加させるため、認定看護師育成ワーキングを継続して開催し、認定看護師による後進育成について検討するとともに、認定看護師になるための情報を盛り込んだ動画を作成した。また、認定看護師とともに活動経験する体験型研修に３名が参加した。

◆ 認定看護師の資格取得者は第３期期間累計７人となったが、新型コロナウイルス感染症の影響により受講可能な教育機関が減少したため、目標（第３期期間累計 11 人）に達していない。

（参考）【実現目標の実績について】　※数値目標のみ抜粋

15．県内基幹病院としての機能の充実

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
低侵襲手術、高精度放射線治療、精密治療としての薬物療法等を含めた質の高いがん治療実施比率の向上	60．9%	56．0%

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
肝炎医療コーディネーター養成数	149人※ （単年度実績：59人）	120人※
※Ｒ１～Ｒ４累計		

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
臨床指標（クリニカルインディケーター）の改善	67%改善 （2／3項目）	改善が必要と判断した項目の50%以上の項目を改善

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
認定看護師等の増加	7人※ （単年度実績：3人）	11人※
※Ｒ１～Ｒ４累計		

16．患者満足の一層の向上

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
患者満足度調査において「非常に満足」「満足」と回答した割合の維持	（外来）　96．6% （入院）　99．0%	（外来）　90%以上 （入院）　90%以上

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
患者満足度調査において診察の待ち時間について「不満」「やや不満」と回答した割合の維持	29．8%	30%以下

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
ホスピタリティマインド醸成研修受講者アンケートにおいて「業務に活用できる」「研修内容を理解できた」と回答した割合の向上	91%	63%

17．安全な医療体制の確立

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
患者安全対策提案数の増加	13件※ （単年度実績：4件）	12件※
※R１～R４累計		

項目別評価及び価値目標項目別評価

Ⅴ. 法人運営
18. ガバナンス体制の確立
19. 医療費適正化の推進とそれを支える費用構造改革の徹底による持続可能な経営基盤の確立
20. 働き方改革の推進　21. 医療人としての人材育成

【項目別評価】

目標項目	持続可能で安定的な法人運営	
評価	Ⅳ	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

【価値目標項目別評価】

価値目標項目			評価
18	ガバナンス体制の確立	理事長の下、全教職員のコンプライアンスの徹底を図り、責任所在の明確化と合理性を徹底したガバナンス体制の構築	A
19	医療費適正化の推進とそれを支える費用構造改革の徹底による持続可能な経営基盤の確立	公立医療機関として率先して医療費適正化を推進するとともに、教育・研究・診療を安定的に提供するための持続可能な経営基盤を確立	A
20	働き方改革の推進	・「働いて良し」を実現するために、働き方改革を推進し、人を引きつける魅力ある職場づくりを推進 ・障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会の実現を目指して、障害のある人が、自分の能力が発揮できる仕事に就くことができ、安心して働き続けることができる組織の確立	A
21	医療人としての人材育成	・法人の全教職員を医療人と考え、知識・技能はもとより豊かな人間性を重視した「良き医療人」を体系的・統一的かつ生涯にわたり教育を実施 ・法人職員の統計リテラシー醸成を図り、法人の各種データの収集・分析、改善策の提案を行うことによって、安定的な運営基盤を確立	B

評価できる取組

価値目標 18
「ガバナンス体制の確立」
中期計画
「理事長のリーダーシップの下、コンプライアンスの徹底と内部統制システムを整備することにより、ガバナンス体制を充実・強化」

令和４年度計画
・大学ホームページや各種広報誌の内容充実を図るとともに、新聞、インターネット等の様々な広報媒体の活用を検討し実施する。

令和４年度取組

◇ 情報発信の充実を図るため、学報、法人案内等の紙による情報発信とホームページ等の電子媒体を活用した情報発信を軸に、記者会見の実施、特設サイトの公開、新聞等への広告掲載、イメージキャラクターを用いた広報等、幅広く多様な手法を活用し、多くの方に情報が届くよう取り組んだ。

価値目標 19

「医療費適正化の推進とそれを支える費用構造改革の徹底による持続可能な経営基盤の確立」

中期計画

「収入の確保と経費の抑制を図ることで、持続可能な安定した経営基盤を確立し、あわせて、医療費適正化に向けた取り組みを推進」

令和４年度計画

・年度を通じて財務分析を行い、適宜、法人内へ情報提供をするとともに、今年度の執行管理の強化及び次年度予算の適正な編成に活用する。
・同一の寄附者からの継続的な寄附及び新規寄附者獲得のため、寄附金を活用した取組や実績等の情報発信を行うなど寄附申込のきっかけを増加させる。
・病院経営・運営会議及び病院運営協議会において経営指標や四半期分析等を共有し、附属病院における経営課題の意見交換及び検討を行う。また必要に応じて附属病院長による診療科部長等との面談を実施し、現場における課題の抽出及び病院方針の徹底を行う。
・附属病院の重点課題毎にプロジェクトを編成し、プロジェクト毎の目標を定めて、各種会議において進捗状況の確認及び収支バランスの取れた経営を進めるための検討を行い、対策を実施する。
・職員一人一人の生産性を向上させるため、現状を分析の上、効率的な組織のあり方についての検討や業務の見直しを行う。

令和４年度取組

◇ 持続可能な安定した経営基盤確立のため、令和３年度決算状況についての動画を教職員へ一斉メールすることにより、法人内に周知し情報共有した。加えて、令和３年度との比較分析等も含めた令和４年度決算見通しを役員会で議論した。
◇ 継続的な寄附及び新規寄附者獲得のため、未来への飛躍基金の目的や活用事業の紹介等を掲載したパンフレットを本学新入生の保護者、同窓会員へ送付するとともに、大学・附属病院内に設置した。また、同窓会報及び県民手帳等への広告掲載も行った。寄附に対する顕彰制度として学報への寄附者芳名の掲載、寄附者銘板の更新、紺綬褒章の伝達式を実施した。
◇ 寄附獲得に向けた機運の醸成を図るため、同窓会を兼ねた応援集会開催への助成、教育・研究活動等充実助成事業の実施、医局への寄附協力依頼を行った。
◇ 病院経営・運営会議、病院運営協議会で毎月の経営に関する各種指標を報告し、附属病院の現状について情報共有を図るとともに、指標の改善に向け、疾患ごとのＤＰＣ分析の報告を行い、入院期間の最適化等に向けた取組を促した。

価値目標 20

「働き方改革の推進」

中期計画

「全教職員が働きやすい魅力ある職場環境づくりに向けた働き方改革を推進し、職員満足度を向上」

令和４年度計画

・医師の働き方改革に対応するため、働き方改革推進委員会に医師を参画させ、院内の共通ルールを作成するとともに各診療科の実態に即した検討および取り組みを実施する。
・男性の育休取得率向上のため、引き続き、取得しやすい環境づくり、雰囲気の醸成に努める。
・柔軟な勤務形態の確立及び業務の効率化を図り、年次有給休暇の取得推進・超過勤務を縮減する。

・引き続き、看護師の業務負担の軽減を図り、働きやすい職場環境を整備し、看護師の離職率を低減させる。
・心の病による長期休職者に対し、復職支援を行うとともに、職員がメンタルヘルスについて理解を深める取り組みを行う。

令和４年度取組

◇ 働きやすい職場環境を整備するため、年次有給休暇の取得状況を運営協議会等で公表した。また、年次有給休暇及び夏季休暇の取得促進通知を発出するとともに、取得単位の拡大や学内ホームページ上での取得の周知等、取得促進の働きかけを行った。
◇ 令和４年度より配偶者出産時の休暇と育児休暇の取得対象を全職員としたため、出産関連の手当を申請する職員に対し制度を周知した。
◇ 看護職ＷＧにおいて、始業前超勤の縮減や一部病棟における障害者雇用職員へのタスクシフト（ベッドメイク）、看護補助者への研修を実施した。
◇ スムーズな復職を支援するために、復職審査会において各個人に合わせた復職プランを作成するとともに、復帰後におけるフォローアップを実施した。
◇ 全教職員を対象にメンタルヘルス研修・ハラスメント防止研修を動画配信した。

（参考）【実現目標の実績について】　※数値目標のみ抜粋

19．医療費適正化の推進とそれを支える費用構造改革の徹底による持続可能な経営基盤の確立

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
繰越欠損金の縮減	△1，347百万円 （単年度実績：988百万円）	中期予算以上の 収支改善を図る （参考）2，866百万円※
※第３期期間中累計の繰越欠損金目標額		

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
未来への飛躍基金寄附実績（累計）の増加	11．9億円※	8．8億円※
※Ｒ１～Ｒ４累計		

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
院内処方の影響を除いた医業収益に対する医薬品比率、診療材料費比率の維持	（医薬品）　27．0% （下位3位） （診療材料費）　41．7% （下位2位）	（医薬品）　公立医科系大学最低を維持 （診療材料費）　公立医科系大学最低を維持

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
院内処方の影響を除いた医業収益に対する労務系委託費＋給与費合計比率の抑制	54．6%	公立医科系大学の平均以下 （平均：52．2%）

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
後発医薬品の使用割合（数量ベース）の増加	80%	80%以上

20．働き方改革の推進

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
教職員を対象とする「ワークライフバランスに関するアンケート」の項目における満足度の向上 （満足度調査）	対前年度比＋0．3% （単年度実績　40．4%）	対前年度比＋1% (参考)R3年度実績　40．1%

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
休暇取得日数の増加	８．４日	６．５日

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
男性の育休取得率の増加	２６．６％	８％

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
超過勤務の縮減	看護職　　対前年度＋３．９％ （R3 101.7 時間 R4 105.7 時間） 医療技術職　対前年度＋３．９％ （R3 143.1 時間 R4 148.7 時間） 事務職　　対前年度△１７．８％ （R3 174.8 時間 R4 143.7 時間）	職種別１人当たり対前年度 超過勤務時間数 △１％

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
女性医師数（週５日勤務）の増加	１４５人	１３４人

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
看護師の在職率の維持	全国平均離職率の △３．３％ 離職率　８．３％	全国平均離職率の △１％ （全国平均１１．６％）
※本項目については、項目名を「看護師の在職率の維持」としているが、実績は「離職率」を採用している。		

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
復職支援カリキュラムの満足度の向上	１００％ （１３人／１３人）	６０％

項目	令和4年度実績	令和4年度目標
障害者雇用率の向上	３．１２％	２．８０％

３　第３期中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間の業務の実績に関する評価

全体評価

法人では、医師の偏在・散在の解消や看護師の質の向上、県民への研究成果の還元、地域の医療機関との連携の推進による救急医療体制の強化、医師と患者双方の視点を織り交ぜた実践的な教育、民間企業や他大学との共同研究、働き方改革などに取り組むとともに、中期計画の全ての項目について、定期的に進捗状況を把握し、進捗管理を行うなど、中期目標・中期計画実現のために意欲的に取り組んだ。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、対面授業や病院実習、国内外での研修が十分に行えないなどの影響があったが、オンラインやシミュレータを活用するなど代替的な取組の実施により中期目標・中期計画実現に向け取り組んだ。また、新型コロナウイルス感染症対策では、重点医療機関として、多数の専用病床の確保や重症患者の受入をはじめ、他の医療機関や福祉施設等への感染防止対策の助言・指導など、県民を守る「最終ディフェンスライン」として多大な貢献をした。

期間見込評価

第３期中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間の業務の実績の中で評価できる取組として、以下の点などがあげられる。

◇ 県費奨学生自身の制度趣旨の理解を深め、医師としてのキャリアパス形成を支援し、離脱防止を図ることを目的に、奨学生との個人面談を随時実施。加えて新入生に向けた奨学生制度の説明会や県費奨学生総会を毎年開催。

◇ 令和元年度及び令和３年度に医師、看護師を対象に特定行為に関するアンケートを実施するとともに、院内各所にポスターを掲示し、職員および患者・家族へ周知。また、特定行為研修を修了した看護師を増加させるため、意向調査やポータルサイトを設置し、活動実績などの情報を積極的に発信。

◇ 健康長寿に関する施策のエビデンス構築を支援する実践的研究について、市町村との共同研究や公的統計を用いた研究を行い、令和４年度までに県民健康増進支援センターの活動に関連した原著論文を 28 本公表。

◇ ｅ－ＭＡＴＣＨを活用した救急コーディネーター事業の確立に向け、県、消防、附属病院医師参画の救急搬送及び医療連携協議会で効率的なｅ－ＭＡＴＣＨの運用方法を検討。

◇ 基幹災害拠点病院として、ＤＭＡＴ隊員の育成を行い、すでに中期目標を大きく上回る４チームの育成を達成。ＤＭＡＴチームのさらなる増加を図るとともに、既にＤＭＡＴ隊員となっている職員の技能・知識の一層の向上を図る。

◇ 紹介率や逆紹介率の維持向上に向け、引き続き適正な返書管理に取り組むとともに、連携登録医や地域の医療機関へ更に情報発信することで、顔の見える関係を再構築。さらに、イベントや広報活動を推進し、地域の医療機関との関係性の一層の向上に取り組む。

◇ モデル・コア・カリキュラムに即した授業の実施を徹底するため、臨床医学及び基礎医学すべての専門科目において、モデル・コア・カリキュラムを網羅。また、医学教育分野別評価でも指摘されている形成的評価の促進について、３年次と５年次に総合問題形式の知識到達度試験を導入。学生の学習能力到達度を評価するとともに、各学年の試験やＣＢＴ等とも相関分析を行い、成績不良者へのフォローアップとして活用。

◇ 医学科において、シミュレーション教育を推進するため、スキルスラボ（※）のシミュレータ及び文部科学省の「感染症医療人材養成事業計画」により整備したシミュレータを活用した実習を実施。また、診療参加型臨床実習を促進するため、令和４年度に変更した臨床実習の新ローテーションでの実習や、指導体制や実習内容（学生の１日の流れ）等を新たに規定した「診療参加型臨床実習実施要領」に則った実習を実施。

（※）スキルスラボ：シミュレーター等を用いて医療知識や医療技術の習得を図るための施設

◇ 研究支援体制強化のため、研究の入口から出口までを包括支援する先端医学研究支援機構を新設。研究の入口支援として、研究計画の立案や外部資金の獲得を専門的に支援するリサーチアドミニストレーター２名を配置。また、臨床研究の支援体制強化のため、人を対象とする医学系研究に携わる者を対象に、研究倫理講習会を行うとともに、その内容を動画で配信。

◇ 産学官連携を推進するため、毎年、学内の研究シーズをとりまとめた冊子を企業等に送付するとともに、産学連携コーディネーターを２名増員し、企業との連携を強化。今後、リサーチアドミニストレーターによる研究支援及び大学共同研究施設の充実を図るとともに、研究シーズの発信により産学官連携を推進。

◇ 医療の質の向上のため、毎年度、国立大学附属病院の機能指標とのベンチマーク比較を行い、医療・教育質向上対策プロジェクト会議において改善項目を決定。ＱＩ活動(Quality Indicator＝質の指標、Quality Improvement＝質の改善)として、周術期せん妄対策、精神科リエゾン、褥瘡対策等５つのワーキングチームが改善活動を実施。

◇ 患者のニーズ調査を実施し、年度ごとの満足度の推移を把握。また、患者満足度調査及び声のポスト等の意見を基に、患者の利便性向上、患者サービス向上のための施設改修、運用の見直し等を実施。

◇ 医療安全管理体制を強化するため、医療安全管理研修を計画的に開催。加えて、インシデント・アクシデント報告制度を活用した原因分析及び再発防止策の立案、安全管理に関する情報発信を実施。また、奈良県医療安全推進センターに対して、附属病院における取組事例や安全対策を中心に、毎年３件以上の患者安全対策を提案。

◇ 効果的な情報発信に向け、法人ホームページや各種広報誌の内容充実を図るとともに、記者会見の実施、特設サイトの公開、新聞等への広告掲載、イメージキャラクターを用いた広報等を展開。

◇ 令和４年度より配偶者出産時の休暇と育児休暇の取得対象を全職員とし、出産関連の手当を申請する職員に制度を周知。今後、男性の育休取得率向上を目指し、取得しやすい環境づくり、雰囲気の醸成に努める。

◇ 看護師の在職率の維持を目指し、看護職ＷＧにおいて始業前超勤の縮減や一部病棟における障害者雇用職員へのタスクシフト（ベッドメイク）、看護補助者への研修を実施。今後、更なるタスクシフトなどによる看護師の業務負担の軽減を図り、働きやすい職場環境を整備。

◇ スムーズな復職を支援するため、復職審査会を開催。当審査会において各個人に合わせた復職プランを作成するとともに、復帰後におけるフォローアップを実施。今後、心の病による長期休職者に対し、復職支援を行うとともに、職員がメンタルヘルスについて理解を深める取組を展開。

一方、課題について、以下の点などがあげられる。

◆ 地域医療が充実する臨床研究支援体制を確立するため、実現目標である臨床研究中核病院の承認取得に向け、年度計画を着実に実施し、臨床研究体制の充実を図ってきた。しかし、研究・安全管理体制や実施体制等の要件は充足したものの、研究成果をあげるためには時間を要することから、研究実績要件等の一部要件充足が困難と見込まれる。整備した研究体制を活かし、今後一層の取組が期待される。

◆ 認定看護師数は、最終目標値に達しない見込みであるが、令和５年度に手術看護分野で１人、皮膚・排泄ケア分野で２人が受講し、令和６年度認定審査に合格すれば、第３期中期目標期間

中に 10 人の増加が見込まれる。県内基幹病院として専門性の高いスキルや知識を有する看護師（特定行為研修修了者、認定看護管理者を含めた人数）は着実に増加している。

以上のほか、新型コロナウイルス感染症の動向に対応した取組として、以下の点などがあげられる。

○ **組織体制の整備：**

情報の収集と発信の一本化、指揮命令系統の確立を図り、簡潔な議論と迅速な決定を行うことを目的とした組織体制を整備するため、理事長を本部長とする新型コロナウイルス感染症対策本部を設置。また、マスコミと感染症専門医による新型コロナウイルス感染症に関する勉強会を開催し、正確な情報を発信。

○ **診療（附属病院）における対応：**

県の要請を受け、令和２年４月から、新型コロナウイルス感染症受入専用病床を県内の感染者数等の状況に応じて、最大 80 床（うち重症病床は最大 14 床）を確保。

また、上記受入体制を確保するため、一般病床の運用や手術枠を縮小し、入院患者の受入を抑制（最大 60%まで病床運用を抑制）するとともに、逆紹介や電話診療の推進等により外来患者も抑制。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染者数が急増した時期には、高度救命救急センターを常に満床に近い状態で運用せざるを得なかったため、救急患者の受入困難な状況に陥るなどの影響が生じた。ただ、このような状況にあっても、地域の医療機関と連携することにより、附属病院でしか対応できない高度医療や悪性腫瘍、急を要する患者については、これまでどおり対応。また、新型コロナウイルス感染症陽性の妊婦の治療については、他府県や他院への搬送を行うことなく自院で完結。

その他、ＰＣＲ検査を実施するための医師・看護師等を派遣するなど、県内のＰＣＲ検査体制の運営に貢献したほか、院内感染防止のため、来院者の発熱トリアージの実施、面会の制限の強化などを実施。

○ **研究部門における取組：**

新型コロナウイルス感染症の感染ルート遮断対策として、３密（密閉、密集、密接）の回避だけでは不十分であると考え、「３つの感染ルート（接触、飛沫、エアロゾル）の遮断」を重視して取り組むことを基本方針とし、感染対策の無料相談等を実施。

また、令和２年度に世界で初めて新型コロナウイルスの不活化を確認した柿渋について、研究成果の製品化共同開発企業を公募し、複数の企業と共同開発を行い、インターネットやコンビニエンスストア等で販売開始。

さらに、新型コロナウイルス感染症への感染が疑われる発熱患者を一般患者と分離して検査や診察を行うことができ、迅速に病院構内等に設置可能な、プレハブ型の「ＭＢＴ感染症外来ユニット」について、全国の病院や自治体に紹介。加えて、ＭＢＴコロナ克服キャンペーンとして各種イベントでの感染対策を指導。

令和４年度にはＭＢＴ連携企業と法人が共同で開発した抗ウイルスマスクが、附属病院のコンビニエンスストアでも販売開始。また、新型コロナウイルス感染症の影響により中断していた若手研究者国際学会発表助成事業を再開。

○ **教育部門における取組：**

授業については、令和２年４月より、学生の来学を禁止し、対面授業を停止した。同年５月からは、教務事務システム等を活用した遠隔授業を実施。同年６月以降は、分散型による対面授業を再開（対面授業と遠隔授業の併用）するとともに、学生実習・病院見学を段階的に再開。加えて、令和３年度には文部科学省の「感染症医療人材養成事業」の選定を受けて整備した高度シミュレータを活用した臨床実習を実施。また、学生に対して、遠隔授業支援奨学金の給付、パソコンの貸与等を実施するとともに、学生支援委員によるチャット機能を活用したオンラインでの学生支援を実施。

新型コロナウイルス感染症の影響で、保健所実習や県・市町村合同の保健師採用説明会が中止になる一方で、令和２年度及び令和３年度は遠隔で実施していた医看合同の病院見学を対面で実施し、県内医療機関に対する意識を涵養。また、海外へのリサーチ・クラークシップ派遣は中止したものの、国内の学外実習施設へ学生を派遣し研究マインドを育成。

これらの取組を含めて、公立大学法人奈良県立医科大学の第３期中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間のすべての業務実績について、実施要領に基づき評価した結果、中期目標で掲げる７項目について、下表のとおり評定した。

項目	評価	内容
Ⅰ. 地域貢献〈教育〉	Ⅳ	中期目標の達成状況が良好である
Ⅰ. 地域貢献〈研究〉	Ⅴ	中期目標の達成状況が極めて良好である
Ⅰ. 地域貢献〈診療〉	Ⅲ	中期目標の達成状況が概ね良好である
Ⅱ. 教育	Ⅲ	中期目標の達成状況が概ね良好である
Ⅲ. 研究	Ⅴ	中期目標の達成状況が極めて良好である
Ⅳ. 診療	Ⅳ	中期目標の達成状況が良好である
Ⅴ. 法人運営	Ⅳ	中期目標の達成状況が良好である

以上のことを踏まえ、公立大学法人奈良県立医科大学の中期計画の業務実績については、中期目標の達成状況が全体として良好であると認められる。

なお、今回、新型コロナウイルス感染症の対応により得られた経験や知見については、教育・研究・診療の各分野の今後の取組に寄与させるよう尽力されたい。

項目別評価及び価値目標項目別評価

Ⅰ. 地域貢献〈教育〉

1. 医師・看護師・保健師の県内定着　2. 医師の偏在・散在の解消　3. 看護師の質の向上

【項目別評価】

目標項目	地域に貢献する医療人の確保と質の向上	
期間見込評価	Ⅳ	中期目標の達成状況が良好である

【価値目標項目別評価】

価値目標項目			期間見込評価
1	医師・看護師・保健師の県内定着	・県内で質の高い医療を効率的に提供する体制を構築するため、医師を養成・確保 ・県内の看護師等学校養成所を卒業して県外で就業した者が、県外の看護師等学校養成所を卒業して県内で就業する者を上回っている中、地域医療体制を支える看護師を確保 ・健康寿命日本一を目指す上で、保健指導の中心的役割を果たす保健師を確保 （参考　評価実績） R1: B　R2: C　R3: B　R4: B	B
2	医師の偏在・散在の解消	奈良県の医師数は全国平均を上回ったが、診療科では全国平均を下回る科もある（偏在）ことや、中規模病院が多く、病院当たりの医師数が少ないこと（散在）の是正が必要 （参考　評価実績） R1: S　R2: A　R3: S　R4: A	A
3	看護師の質の向上	看護職員の役割が拡大する中、専門的な知識と技術に裏付けられた高い看護水準を担保するため、専門看護師や特定行為研修修了者等、高いスキルを持つ看護職員を養成。また、住み慣れた自宅での療養ニーズに対応するため、訪問看護師の質を向上 （参考　評価実績） R1: S　R2: A　R3: A　R4: A	A

評価できる取組

価値目標2

「医師の偏在・散在の解消」

中期計画

「県及び各関係機関との連携のもと、県費奨学生のキャリアパス形成を支援し、地域医療に貢献する医師を育成するとともに地域の医療機関からの派遣要請等を精査し、適正な医師派遣を実施」

第３期中期目標期間の取組（実績及び見込みを記載）

◇ 県費奨学生自身の制度趣旨の理解を深め、医師としてのキャリアパス形成を支援し、離脱防止を図ることを目的に、奨学生との個人面談を随時実施。加えて、新入生に向けた奨学生制度の説明会や県費奨学生総会を毎年開催。

◇ 令和２年度から令和４年度において、県費奨学生に対する取組のうち、対面式イベント（交流会・バスツアー・ランチミーティング）は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、６年生対象の研修病院説明会は感染対策を行った上で開催。

価値目標3

「看護師の質の向上」

中期計画

「特定行為研修を修了した看護師・専門看護師を増やすとともに、看護職員の教育・研修プログラムを充実させることにより地域の看護師の能力を向上」

第３期中期目標期間の取組（実績及び見込みを記載）

◇ 令和元年度及び令和３年度に医師、看護師を対象に特定行為に関するアンケートを実施するとともに、院内各所にポスターを掲示し、職員および患者・家族へ周知。

◇ 特定行為研修を修了した看護師を増加させるため、意向調査やポータルサイトを設置し、活動実績などの情報を積極的に発信。

（参考）【実現目標の実績について】　※数値目標のみ抜粋

１．医師・看護師・保健師の県内定着

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
県内で臨床研修を行う医大卒医の県内基幹病院における専攻医登録率の確保	目標	第3期期間平均　80%					
	実績	88．1%	86．0%（単年度実績：83．8%）	83．4%（単年度実績：78．3%）	85．5.%（単年度実績：91．7%）	80．0%（医大見込）	80．0%（医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
医学科卒業生の県内就業率の確保	目標	第3期期間平均　60%					
	実績	56．7%	56．9%（単年度実績：57．1%）	60．6%（単年度実績：67．9%）	56．7%（単年度実績：45%）	58．8%（単年度医大見込：67%）	60．2%（単年度医大見込：67%）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
看護学科卒業生の県内就業率の確保	目標	第3期期間平均　65%					
	実績	68．0%	66．5%（単年度実績：65．0%）	68．9%（単年度実績：72．2%）	67．2%（単年度実績：63．4%）	67．2%（医大見込）	67．2%（医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
看護学科卒業生の保健師県内就業者数の増加	目標	第3期期間平均　6人					
	実績	6人	4人（単年度実績：2人）	4．3人（単年度実績：5人）	4．8人（単年度実績：6人）	4．8人（単年度医大見込：5人）	5人（単年度医大見込：6人）

２．医師の偏在・散在の解消

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
県立医大医師派遣センター等を通じた地域の医療機関への配置医師数の増加	目標	7人	14人	24人	36人	49人	56人※
	実績	16人	33人	35人	44人	54人（医大見込）	64人※（医大見込）
※　第３期期間累計							

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
医師が不足するへき地や診療科、診療分野に従事する医師数の増加	目標	41人	56人	66人	88人	100人	105人※
	実績	42人	58人	70人	92人	108人（医大見込）	119人※（医大見込）
※　第３期期間累計							

３．看護師の質の向上

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
特定行為研修（急性期コース）を修了した看護師数の増加	目標	3人	6人	9人	12人	15人	18人※
	実績	6人	11人	16人	20人	23人（医大見込）	26人※（医大見込）
※　第３期期間累計							

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
専門看護師数の増加	目標	―	1人	―	2人	―	3人※
	実績	1人	1人	1人	1人 *大学院修了2名	3人（医大見込）	3人※（医大見込）
※　第３期期間累計							

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
特定行為研修（在宅コース）を修了した看護師数の増加	目標	6人	12人	18人	24人	30人	36人※
	実績	8人	17人	22人	30人	40人（医大見込）	48人※（医大見込）
※　第３期期間累計							

項目別評価及び価値目標項目別評価

Ⅰ．地域貢献〈研究〉
　４．地域に根ざし地域と歩む研究の推進

【項目別評価】

目標項目	県民の健康増進への貢献	
期間見込評価	**V**	**中期目標の達成状況が極めて良好である**

【価値目標項目別評価】

<table>
<tr><th colspan="3">価値目標項目</th><th>期間見込評価</th></tr>
<tr><td>4</td><td>地域に根ざし地域と歩む研究の推進</td><td>奈良県の医療・保健・福祉に関する諸課題を解決するため、県と連携して研究に取り組み、その成果を県民に還元
（参考　評価実績）
<table>
<tr><th>R１</th><th>R２</th><th>R３</th><th>R４</th></tr>
<tr><td>S</td><td>S</td><td>S</td><td>S</td></tr>
</table></td><td>S</td></tr>
</table>

評価できる取組

価値目標4
「地域に根ざし地域と歩む研究の推進」
中期計画
「市町村や県が実施する健康増進事業への協力・連携及び実践的研究を実施」

第３期中期目標期間の取組（実績及び見込みを記載）

◇ 健康長寿に関する施策のエビデンス構築を支援する実践的研究について、市町村との共同研究や公的統計を用いた研究を行い、令和４年度までに県民健康増進支援センターの活動に関連した原著論文を 28 本公表。

◇ 健康増進計画や関連計画に関する委員会や事業評価会議への参画、アンケート調査や事業への支援を通して、県や市町村が実施する健康増進事業の施策立案に対し助言。

◇ 県から提供を受けた県内の市町村国保・後期高齢者医療の健康関連データの利活用のための基盤作りを推進。

◇ 今後、新規支援件数の増加に向け、未支援の市町村への支援活動や啓発活動に取り組む。また、県の健診データを用いて医療・介護・健康の現状と要因を明らかにし、県や市町村の健康・医療保険・介護保険の関係部局に還元するとともに課題を提案。

◇ 新型コロナウイルス感染症の拡大による生活習慣の変化等を踏まえた、県や市町村等の健康長寿に関する各種計画策定や対策の再構築を専門的見地から支援。

中期計画
「健康寿命延伸や医学を基礎とするまちづくり研究等を進展」

第３期中期目標期間の取組（実績及び見込みを記載）

◇ 研究推進戦略本部会議における重点研究課題であるコホート研究の進捗管理報告会を実施。

◇ 令和４年度までに下記のとおりＭＢＴ研究に関する諸事業等を実施。

＜企業及び自治体等と連携した積極的な事業の推進＞

・企業等と共同でウェアラブル端末等を用いたヘルスケアサービスの実証実験を実施。
・ＭＢＴに係る研究成果を具現化するベンチャー企業を６社設立し、企業と共同で新製品を開発。
・ＭＢＴ構想の海外展開を目指し、マレーシアプトラ大学と情報交換と相互連携を強化。
・県が公募する大型研究助成（総額１億円）にＭＢＴ連携企業とともに申請し採択。
・経団連の「地域協創アクションプログラム」の医療・育児・介護関連事業と連携。

＜学内外へのＭＢＴ研究成果の情報発信及び地域への還元＞

・ＭＢＴの研究成果等を紹介するＭＢＴオープンミーティングを開催。
・全国の講演会及び展示会において累計 40 回以上ＭＢＴ研究成果を紹介し情報を発信。
・薬局チェーン店内のデジタルサイネージによりＭＢＴの取組内容を紹介。
・東京メトロ線等でＭＢＴ会員企業の紹介広告を掲載し、首都圏でＭＢＴの取組を周知。
・ＭＢＴ健康教室を今井町内で月２回程度開催し、地域住民に研究成果を還元。
・ＭＢＴ活動に賛同する著名な企業人にＭＢＴ特命教授の称号を付与し、本学医学生を対象にＭＢＴに関する講義を実施。
・薬局チェーン店で月１回程度ＭＢＴ健康ステーションを開催し、ＩｏＴを利用した健康機器等を活用して、地元住民へ健康アドバイスを実施。
・ＭＢＴ活動の一環として医大学生が近隣薬局店で「ＭＢＴカフェ」をオープン。
・これまでのＭＢＴ活動の軌跡を記した書籍を発行し、広くＭＢＴを周知。

＜ＭＢＴコロナ克服キャンペーンの取組について＞

・ＭＢＴ連携企業と、オゾンガスや柿渋及びお茶による新型コロナウイルスの不活化を研究し、不活化の確認及びその条件を明らかにした。多くのマスコミに取り上げられ、海外からも問い合わせ殺到。
・新型コロナウイルスの研究について、約 300 を超える企業から共同研究等の依頼があり、新たな研究成果の創出に向けて活動。
・感染ルート遮断に特化したプレハブ型外来施設「ＭＢＴ感染症外来ユニット」をＭＢＴ連携企業と開発し、様々なメディアで報道。
・ＭＢＴ連携企業と連携し、スマホでコロナ患者の見守りを目指した製品の研究を開始。
・ＭＢＴコロナ対策企業相談を電車の中吊り広告で広報するとともに、日本経済新聞全国版等に掲載し、全国に周知。
・医学知識に基づいたＭＢＴコロナ感染対策企業無料相談を全国８か所で実施。
・新型コロナウイルス感染症対策について有識者を交えて座談会を実施。その模様をＷＥＢにより全国配信し、医学的に正しい感染予防知識を周知。
・県内ホテルで、新型コロナウイルス感染対策が施された「感染を防ぐための模擬立食パーティー」を開催し、コロナ禍でのパーティー開催方法を実演で紹介。多くのマスコミが参加し、様々なメディアで報道。
・キャンペーンの活動内容をまとめた冊子をホームページで掲載し周知。

＜ＭＢＴ難病克服キャンペーンの取組について＞

・ＭＢＴ連携企業等から協賛企業を募集。
・難病克服支援ＷＥＢセミナーを計４回開催し、難病で苦しむ方々の想いを全国に発信。
・２回のＭＢＴ映画祭を開催し、難病克服を支援。
・けいはんな映画劇場、うめきた映画劇場で第１回ＭＢＴ映画祭の受賞作品を上映し、難病克服に関するＭＢＴの取組を周知。

◇ 今後、重点研究課題であるＭＢＴ研究に関する諸事業を多種多様な企業等と推進し、研究成果の地域への還元及び情報発信を実施。

(参考)【実現目標の実績について】 ※数値目標のみ抜粋

４．地域に根ざし地域と歩む研究の推進

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
県民健康増進支援センターによる県・市町村及び民間医療機関等の支援の新規件数（累計）の増加	目標	25件	30件	35件	40件	45件	50件※
	実績	45件	49件	51件	58件	63件 （医大見込）	68件※ （医大見込）
※　第３期期間累計							

項目別評価及び価値目標項目別評価

Ⅰ．地域貢献〈診療〉
5．県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践　6．病病連携・病診連携の推進
7．各領域の担い手となる医療人の育成

【項目別評価】

目標項目	地域医療機関との連携・機能分担の推進	
期間見込評価	Ⅲ	中期目標の達成状況が概ね良好である

【価値目標項目別評価】

価値目標項目			期間見込評価
5	県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践	救急医療体制を強化するとともに、奈良県基幹災害拠点病院として、県民を守り地域の安心の確保に貢献 （参考　評価実績） R1 A / R2 A / R3 A / R4 A	A
6	病病連携・病診連携の推進	地域の医療機関との適切な機能分担と緊密な連携を推進し、地域医療を支える （参考　評価実績） R1 A / R2 B / R3 A / R4 A	A
7	各領域の担い手となる医療人の育成	質の高い医療を実践できる優秀な医師を確保し、県民が県内で高度な医療が受けられ、地域医療が充実する臨床研究支援体制を確立 （参考　評価実績） R1 B / R2 A / R3 B / R4 B	C

評価できる取組

価値目標5
「県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践」
中期計画
「県内の救急医療に関する諸機関との連携体制の下、重篤な救急患者の受け入れを中心に、県民を守る「最終ディフェンスライン」としての取組を実施」

第３期中期目標期間の取組（実績及び見込みを記載）
◇ ｅ－ＭＡＴＣＨを活用した救急コーディネーター事業の確立に向け、県、消防、附属病院医師参画の救急搬送及び医療連携協議会で効率的なｅ－ＭＡＴＣＨの運用方法を検討。
◇ 母体搬送コーディネーター事業等により令和４年度までは、新型コロナウイルス陽性妊婦を奈良県総合医療センターと連携し、県内で 100%受入。新型コロナウイルス陽性妊婦からの出生児についても、附属病院と奈良県総合医療センターＮＩＣＵが全例受入。
◇ 新型コロナウイルス陽性妊婦や新生児の受入に伴う入院制限が生じた時のために、大阪府の新生児診療相互援助システム（ＮＭＣＳ）により、大阪府の医療機関に非感染母体や新生児の受け入れに関する協力を依頼していたが、令和４年度までに県外施設への搬送例はなし。

◇ 今後、新生児県内受入率及びハイリスク妊婦の県内受入率向上のため、母体搬送コーディネーター事業を実施するとともに、新型コロナウイルスの５類感染症移行に伴い、県内の周産期医療機関に受入制限が生じないよう、奈良県総合医療センター等との連携を強化。

中期計画

「県内医療機関との連携強化と機能分担を推進し、基幹災害拠点病院としての取り組みを実施」

第３期中期目標期間の取組（実績及び見込みを記載）

◇ 基幹災害拠点病院として、ＤＭＡＴ隊員の育成を行い、既に中期目標を大きく上回る４チームの育成を達成。ＤＭＡＴチームのさらなる増加を図るとともに、既にＤＭＡＴ隊員となっている職員の技能・知識の一層の向上を図る。

価値目標6

「病病連携･病診連携の推進」

中期計画

「地域の医療機関との密接な連携を進め、患者が必要な医療を継続して受けることのできる地域完結型医療を推進」

第３期中期目標期間の取組（実績及び見込みを記載）

◇ 紹介率や逆紹介率の維持向上に向け、引き続き適正な返書管理に取り組むとともに、連携登録医や地域の医療機関へ更に情報発信することで、顔の見える関係を再構築。さらに、イベントや広報活動を推進し、地域の医療機関との関係性の一層の向上に取り組む。

◇ 在宅医療に関わる多職種の医療関係者との連携を図ることを目的として、在宅診療研究会を定期的に開催し、在宅医療について理解を深め、各種課題に係る情報共有や意見交換を実施。

◇ 令和４年４月に開設した在宅医療支援センターの利用促進に向け、必要に応じ組織体制や運用ルール等の改善・充実を図るとともに、県の連携・協力も得て在宅医療支援センターのＰＲや情報発信を推進。

◇ 入院から退院までシームレスに支援ができるよう、地域の医療機関と良好な関係性を構築し、連携を推進するとともに、質の高い入退院支援、在宅支援を提供するための人材育成に取り組む。

課題

中期計画

「県内及び全国の医療機関等との連携を進めるとともに質の高い国際水準の臨床研究を実施する体制を整え、臨床研究への支援を進め臨床研究中核病院の承認要件充足に向けた取り組みを実施」

第３期中期目標期間の取組（実績及び見込みを記載）

◆ 地域医療が充実する臨床研究支援体制を確立するため、実現目標である臨床研究中核病院の承認取得に向け、年度計画を着実に実施し、臨床研究体制の充実を図ってきた。しかし、研究・安全管理体制や実施体制等の要件は充足したものの、研究成果をあげるためには時間を要することから、研究実績要件等の一部要件充足が困難と見込まれる。

（参考）【実現目標の実績について】　※数値目標のみ抜粋

５．県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
中南和地域における重症以上の傷病者搬送事案において医療機関に受入の照会を行った回数4回以上の割合の低下	目標	５．７％	５．２％	４．７％	４．２％	３．７％	２．７％
	実績	１．８１％	１．９４％	３．７５％	７．３６％	３．７２％（医大見込）	１．８８％（医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
救急隊からの受入照会に対する受入率の向上※	目標	100％	100％	100％	100％	100％	100％
	実績	９２．６％	９０．０％	８６．４％	８５．１％	８８．６％（医大見込）	９１．３％（医大見込）
※　高度救命救急センター							

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
新生児県内受入率及びハイリスク妊婦の県内受入率の向上	目標（新生児）	100％	100％	100％	100％	100％	100％
	実績	９９．１％	９９．２％	９７．７％	100％	100％（医大見込）	100％（医大見込）
	目標（ハイリスク妊婦）	100％	100％	100％	100％	100％	100％
	実績	９９．６％	９９．２％	100％	９６．９％	100％（医大見込）	100％（医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
災害医療を支えるDMATチームの育成	目標	－	－	1チーム	－	－	2チーム※
	実績	2チーム	3チーム	3チーム	4チーム	4チーム（医大見込）	5チーム※（医大見込）
※　第３期期間累計							

６．病病連携・病診連携の推進

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
高い紹介率の維持	目標	93％以上	93％以上	93％以上	93％以上	93％以上	93％以上
	実績	９３．２％	９４．９％	９４．５％	９５．８％	９５．０％（医大見込）	９５．０％（医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
高い逆紹介率の維持	目標	82％以上	82％以上	82％以上	82％以上	82％以上	82％以上
	実績	９１．９％	１０７．４％	９３．５％	９３．０％	９４．０％（医大見込）	９４．０％（医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
糖尿病専門医養成数の増加	目標	１人	２人	３人	４人	５人	６人※
	実績	１人	１人	３人	４人	５人（医大見込）	６人※（医大見込）
※　第３期期間累計							

項目別評価及び価値目標項目別評価

Ⅱ. 教育
8.「心の教育」を軸とした「良き医療人」の育成
9. 教員の教育能力開発と教育全般に関する 360 度評価　10. 学生への支援の推進
11. 学習環境と教育環境の充実

【項目別評価】

目標項目	最高の医学と最善の医療を行う「良き医療人」の育成	
期間見込評価	**Ⅲ**	**中期目標の達成状況が概ね良好である**

【価値目標項目別評価】

<table>
<tr><th colspan="3">価値目標項目</th><th>期間見込評価</th></tr>
<tr><td>8</td><td>「心の教育」を軸とした「良き医療人」の育成</td><td>・知識・技能はもとより、豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と暖かい心で積極的に交流する医療人の育成
・臨床実習を強化し、患者安全に関する基本教育、医療者になる自覚の強化、参加型臨床実習への円滑な移行による臨床マインドの育成
（参考　評価実績）<table><tr><td>R１</td><td>R２</td><td>R３</td><td>R４</td></tr><tr><td>A</td><td>B</td><td>B</td><td>A</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
<tr><td>9</td><td>教員の教育能力開発と教育全般に関する360度評価※</td><td>魅力ある教育を実現するため、学生の参加を推進するとともに、教員の教育能力を向上
（参考　評価実績）<table><tr><td>R１</td><td>R２</td><td>R３</td><td>R４</td></tr><tr><td>A</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
<tr><td>10</td><td>学生への支援の推進</td><td>教員・学生間対話を拡大し、学生全体対話の他、個別面談やカウンセリング等の個別対話を拡大
（参考　評価実績）<table><tr><td>R１</td><td>R２</td><td>R３</td><td>R４</td></tr><tr><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
<tr><td>11</td><td>学習環境と教育環境の充実</td><td>豊かな知識と優れた技能、地域貢献の気概を持った国際水準の医療人を育成するために、学習環境と教育環境を改善
（参考　評価実績）<table><tr><td>R１</td><td>R２</td><td>R３</td><td>R４</td></tr><tr><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
</table>

※３６０度評価：学生や評価機構など、立場が異なる複数の評価者が評価する手法・多面評価

評価できる取組

価値目標8

「「心の教育」を軸とした「良き医療人」の育成」

中期計画

「医学科においては「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「医学教育分野別認証評価」、看護学科においては「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」及び「看護学教育分野別認証評価」に則した専門教育を実施」

「地域基盤型医療教育カリキュラム及び臨床マインド育成カリキュラム並びに看護に係る臨床実習を最適化」

第３期中期目標期間の取組（実績及び見込みを記載）

◇ モデル・コア・カリキュラムに即した授業の実施を徹底するため、臨床医学及び基礎医学すべての専門科目において、モデル・コア・カリキュラムを網羅。また、医学教育分野別評価でも指摘されている形成的評価の促進について、３年次と５年次に総合問題形式の知識到達度試験を導入。学生の学習能力到達度を評価するとともに、各学年の試験やＣＢＴ等とも相関分析を行い、成績不良者へのフォローアップとして活用。

◇ 医学科において、シミュレーション教育を推進するため、スキルスラボのシミュレータ及び文部科学省の「感染症医療人材養成事業計画」により整備したシミュレータを活用した実習を実施。また、診療参加型臨床実習を促進するため、令和４年度に変更した臨床実習の新ローテーションでの実習や、指導体制や実習内容（学生の１日の流れ）等を新たに規定した「診療参加型臨床実習実施要領」に則った実習を実施。

（参考）【実現目標の実績について】　※数値目標のみ抜粋

８．「心の教育」を軸とした「良き医療人」の育成

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
医師・看護師・保健師・助産師の現役卒業生の国家試験合格率の向上	目標（医師）	国公立大学トップ10	国公立大学トップ10	国公立大学トップ10	国公立大学トップ10	国公立大学トップ10	国公立大学トップ10
	実績	7位	42位	25位	3位	5位（医大見込）	5位（医大見込）
	目標（看護師）	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	実績	95．2%	100%	98．7%	100%	100%（医大見込）	100%（医大見込）
	目標（保健師）	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	実績	100%	100%	100%	100%	100%（医大見込）	100%（医大見込）
	目標（助産師）	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	実績	100%	100%	100%	100%	100%（医大見込）	100%（医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
「良き医療人」育成にかかる教養・基礎・臨床・看護各分野におけるカリキュラムの最適化 ① CBT※1合格率の向上 ② Post－CC OSCE※2合格率の維持 ③ 看護技術項目到達度チェックリストの到達度平均の向上	目標①	93%	93．4%	93．8%	94．2%	94．6%	95%
	実績	99%	100%	99．1%	99．1%	99% （医大見込）	99% （医大見込）
	目標②	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	実績	100%	新型コロナウイルスの感染症拡大に伴い、本試験を中止	100%	100%	100% （医大見込）	100% （医大見込）
	目標③	平均90%以上	平均90%以上	平均90%以上	平均90%以上	平均90%以上	平均90%以上
	実績	83．6%	82．7%	76．4%	77．3%	80% （医大見込）	80% （医大見込）

※１　ＣＢＴ（Computer Based Testing）：臨床実習開始前（4 年生時）に実施する共用試験

※２　Post-CC OSCE（OSCE:Objective Structured Clinical Examination）：臨床実習終了後（6 年生時）に実施する客観的臨床能力試験

項目別評価及び価値目標項目別評価

Ⅲ. 研究

12. 最善の医療に貢献する最先端の研究の実施　13. 横連携・他分野連携の推進

14. 研究推進体制の適正化と強化

【項目別評価】

目標項目	最善の医療に貢献する最先端の研究の実施	
期間見込評価	**V**	**中期目標の達成状況が極めて良好である**

【価値目標項目別評価】

価値目標項目			期間見込評価
12	最善の医療に貢献する最先端の研究の実施	研究の成果を患者の最善の医療に活かし、県民の健康増進を図るとともに、最先端の研究の実施により医学の進歩に貢献 （参考　評価実績） R１ R２ R３ R４ S S S S	**S**
13	横連携・他分野連携の推進	講座、領域単位の専門分野の研究に加え、枠組みを超えて連携した研究を推進 （参考　評価実績） R１ R２ R３ R４ S S S S	**S**
14	研究推進体制の適正化と強化	若手研究者や女性研究者の育成や研究推進体制の強化による研究の促進 （参考　評価実績） R１ R２ R３ R４ A A A A	**A**

評価できる取組

価値目標12

「最善の医療に貢献する最先端の研究の実施」

中期計画

「研究総合力を増強」「臨床研究の支援体制を強化」

「がん、脳卒中、心筋梗塞等に貢献する重点研究を推進」

第３期中期目標期間の取組（実績及び見込みを記載）

◇ 研究支援体制強化のため、研究の入口から出口までを包括支援する先端医学研究支援機構を新設。研究の入口支援として、研究計画の立案や外部資金の獲得を専門的に支援するリサーチアドミニストレーター２名を配置。また、臨床研究の支援体制強化のため、人を対象とする医学系研究に携わる者を対象に、研究倫理講習会を行うとともに、その内容を動画で配信。

価値目標13
「横連携・他分野連携の推進」
中期計画
「横断的共同研究の取り組みを推進」
「研究者情報データベース活用等による研究業績を見える化」
「産学官連携、研究支援機能の強化と大学共同研究機能を充実」

第３期中期目標期間の取組（実績及び見込みを記載）
◇ 奈良先端科学技術大学院大学との横断的共同研究を推進するため、連携活性化委員会を令和元年度に設置し、研究者共同発表会を開催。
◇ 産学官連携を推進するため、毎年、学内の研究シーズをとりまとめた冊子を企業等に送付するとともに、産学連携コーディネーターを２名増員し、企業との連携を強化。今後、リサーチアドミニストレーターによる研究支援及び大学共同研究施設の充実を図るとともに、研究シーズの発信により産学官連携を推進。

（参考）【実現目標の実績について】　※数値目標のみ抜粋

12．最善の医療に貢献する最先端の研究の実施

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
PubMed※1対象の英文学術論文数（累計）の増加	目標	400件	800件	1，200件	1，600件	2，000件	2，400件※2
	実績	651件	1，383件	2，221件	3，094件	3，776件（医大見込）	4，526件※2（医大見込）

※１　PubMed：アメリカ国立医学図書館内の国立生物科学情報センター（ＮＣＢＩ）が運営する医学・生物学分野の学術論文検索サービス
※２　第３期期間累計

13．横連携・他分野連携の推進

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
民間企業や他学部との共同研究件数（累計）の増加	目標	30件	65件	100件	135件	170件	200件※
	実績	54件	105件	143件	184件	224件（医大見込）	264件※（医大見込）

※　第３期期間累計

14．研究推進体制の適正化と強化

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
研究推進体制の適正化と強化の推進 ① 文部科学省科研費採択件数（新規＋継続）の増加 ② 研究活動不正防止研修受講者数（累計）の増加	目標①	208件	208件	209件	210件	211件	212件
	実績	222件	232件	257件	259件	250件（医大見込）	250件（医大見込）
	目標②	1，200人	1，300人	1，400人	1，500人	1，600人	1，700人※
	実績	1，368人	1，518人	1，679人	1，904件	2，084件（医大見込）	2，264件※（医大見込）

※　第３期期間累計

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度 （目標）
若手研究者・女性研究者の支援 ① 若手研究採択件数（新規＋継続）の増加 ② 女性研究者数（医学科女性教員割合）の増加	目標①	45件	46件	47件	48件	49件	50件
	実績	69件	91件	95件	84件	85件 （医大見込）	85件 （医大見込）
	目標②	17．5%	18．0%	18．5%	19．0%	19．5%	20．0%
	実績	19．4%	19．8%	18．9%	19．1%	19．5% （医大見込）	19．5% （医大見込）

項目別評価及び価値目標項目別評価

Ⅳ. 診療

15. 県内基幹病院としての機能の充実　16. 患者満足の一層の向上

17. 安全な医療体制の確立

【項目別評価】

目標項目	安全で安心できる最善の医療の提供	
期間見込評価	Ⅳ	中期目標の達成状況が良好である

【価値目標項目別評価】

価値目標項目			期間見込評価
15	県内基幹病院としての機能の充実	・県内唯一の特定機能病院として、高度医療・先端医療を推進 ・県中南部の拠点となる高度医療拠点病院としての役割を担うための診療、人材及び機能の充実 （参考　評価実績） R1: B　R2: B　R3: A　R4: A	A
16	患者満足の一層の向上	医療人のホスピタリティマインド醸成や患者の意見及び要望を適切に反映することにより、患者の診療に対する満足度を維持 （参考　評価実績） R1: B　R2: A　R3: S　R4: A	A
17	安全な医療体制の確立	県内医療機関による安全で透明性が高く、県民から信頼される医療の提供 （参考　評価実績） R1: B　R2: B　R3: B　R4: A	A

評価できる取組

価値目標 15

「県内基幹病院としての機能の充実」

中期計画

「県内基幹病院として求められる機能を発揮するため、臨床指標を通じた医療の質の向上、熟練した技術と知識を有する人材の養成及び将来の医療ニーズを踏まえた病院施設整備の取組を推進」

第３期中期目標期間の取組（実績及び見込みを記載）

◇　医療の質の向上のため、毎年度、国立大学附属病院の機能指標とのベンチマーク比較を行い、医療・教育質向上対策プロジェクト会議において改善項目を決定。令和３年度にはＱＩ活動(Quality Indicator＝質の指標、Quality Improvement＝質の改善)として、周術期せん妄対策、精神科リエゾン、褥瘡対策等５つのワーキングチームが改善活動を実施。

価値目標 16

「患者満足の一層の向上」

中期計画

「患者ニーズの把握及び職員の意識改善に努め、提供する医療の質を向上」

第３期中期目標期間の取組（実績及び見込みを記載）

◇ 患者のニーズ調査を実施し、年度ごとの満足度の推移を把握。また、患者満足度調査及び声のポスト等の意見を基に、患者の利便性向上、患者サービス向上のための施設改修、運用の見直し等を実施。

◇今後、患者満足度調査の結果を踏まえ、患者サービス向上に繋がる取組を「医療サービス向上プロジェクト」を中心に検討を行うとともに、受講者アンケート結果等を踏まえ、研修内容を検証することで効果的なホスピタリティマインド醸成研修の開催を図る。

価値目標 17

「安全な医療体制の確立」

中期計画

「医療安全を病院管理の最も重要な課題と認識し、全職員が患者の安全を最優先に考えて行動できるよう、医療安全管理体制をさらに強化」

「患者の意思を尊重しながら、十分なインフォームドコンセントを行い、患者及び家族と協同した治療を推進」

第３期中期目標期間の取組（実績及び見込みを記載）

◇医療安全管理体制を強化するため、医療安全管理研修を計画的に開催。加えて、インシデント・アクシデント報告制度を活用した原因分析及び再発防止策の立案、安全管理に関する情報発信を実施。また、奈良県医療安全推進センターに対して、附属病院における取組事例や安全対策を中心に、毎年３件以上の患者安全対策を提案。

課題

中期計画

「県内基幹病院として求められる機能を発揮するため、臨床指標を通じた医療の質の向上、熟練した技術と知識を有する人材の養成及び将来の医療ニーズを踏まえた病院施設整備の取り組みを推進」

第３期中期目標期間の取組（実績及び見込みを記載）

◇ 認定看護師の資格取得者を増加させるために参加型研修の企画及び運営を行うとともに、認定看護師ワーキングを毎月開催。また、認定看護師が作成した動画をホームページ内で閲覧できる環境を整備し、発信。

◇ 認定看護師対象のアンケートの結果、受講意思決定の要因として上司の支援があげられていることから、これを看護師長会において周知するとともに意識づけを実施。

◇ 今後、認定看護師の資格取得者を増加させるため、面談時に意向を確認し適任者を発掘するとともに、認定看護師に対する関心を高めるための体験型研修を継続。

◆ 認定看護師数は、最終目標値に達しない見込みであるが、令和５年度に手術看護分野で１人、皮膚・排泄ケア分野で２人が受講し、令和６年度認定審査に合格すれば、第３期中期目標期間中に 10 人の増加が見込まれる。県内基幹病院として専門性の高いスキルや知識を有する看護師（特定行為研修修了者、認定看護管理者を含めた人数）は着実に増加している。

（参考）【実現目標の実績について】　※数値目標のみ抜粋

15．県内基幹病院としての機能の充実

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
低侵襲手術、高精度放射線治療、精密治療としての薬物療法等を含めた質の高いがん治療実施比率の向上	目標	52．0%	53．0%	54．0%	56．0%	58．0%	60．0%
	実績	52．8%	55．3%	56．0%	60．9%	59．7% （医大見込）	61．8% （医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
肝炎医療コーディネーター養成数	目標	30人	60人	90人	120人	150人	180人※
	実績	50人	50人	90人	149人	179人 （医大見込）	209人※ （医大見込）
※　第３期期間累計							

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度 （目標）
臨床指標（クリニカルインディケーター）の改善	目標	改善が必要と判断した項目の50%以上の項目を改善	改善が必要と判断した項目の50%以上の項目を改善	改善が必要と判断した項目の50%以上の項目を改善	改善が必要と判断した項目の50%以上の項目を改善	改善が必要と判断した項目の50%以上の項目を改善	改善が必要と判断した項目の 50%以上の項目を改善
	実績	100%改善 （3／3項目）	50%改善 （1／2項目）	100%改善 （2／2項目）	67%改善 （2／3項目）	100%改善 （3／3項目） （医大見込）	100%改善（3／3項目） （医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
認定看護師等の増加	目標	3人	6人	9人	11人	13人	15人※
	実績	1人	4人	4人	7人	7人 （医大見込）	10人※ （医大見込）
※　第３期期間累計							

16．患者満足の一層の向上

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度 （目標）
患者満足度調査において「非常に満足」「満足」と回答した割合の維持	目標（外来）	90% 以上	90% 以上	90% 以上	90% 以上	90% 以上	90% 以上
	実績	96．1%	97．3%	98．1%	96．6%	97．0% （医大見込）	97．0% （医大見込）
	目標（入院）	90% 以上	90% 以上	90% 以上	90% 以上	90% 以上	90% 以上
	実績	97．2%	97．4%	98．4%	99．0%	98．0% （医大見込）	98．0% （医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
患者満足度調査において診察の待ち時間について「不満」「やや不満」と回答した割合の維持	目標	30%以下	30%以下	30%以下	30%以下	30%以下	30%以下
	実績	30．4%	18．3%	24．4%	29．8%	29．0% （医大見込）	29．0% （医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
ホスピタリティマインド醸成研修受講者アンケートにおいて「業務に活用できる」「研修内容を理解できた」と回答した割合の向上	目標	57%	59%	61%	63%	64%	65%
	実績	58%	51%	85%	91%	92% （医大見込）	93% （医大見込）

17．安全な医療体制の確立

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
患者安全対策提案数の増加	目標	3件	6件	9件	12件	15件	18件※
	実績	3件	6件	9件	13件	16件 （医大見込）	19件※ （医大見込）
※　第３期期間累計							

項目別評価及び価値目標項目別評価

Ⅴ. 法人運営
18. ガバナンス体制の確立
19. 医療費適正化の推進とそれを支える費用構造改革の徹底による持続可能な経営基盤の確立
20. 働き方改革の推進　21. 医療人としての人材育成

【項目別評価】

目標項目	持続可能で安定的な法人運営	
期間見込評価	Ⅳ	中期目標の達成状況が良好である

【価値目標項目別評価】

<table>
<tr><th colspan="3">価値目標項目</th><th>期間見込評価</th></tr>
<tr><td>18</td><td>ガバナンス体制の確立</td><td>理事長の下、全教職員のコンプライアンスの徹底を図り、責任所在の明確化と合理性を徹底したガバナンス体制の構築
（参考　評価実績）
<table><tr><td>R１</td><td>R２</td><td>R３</td><td>R４</td></tr><tr><td>A</td><td>B</td><td>A</td><td>A</td></tr></table></td><td>A</td></tr>
<tr><td>19</td><td>医療費適正化の推進とそれを支える費用構造改革の徹底による持続可能な経営基盤の確立</td><td>公立医療機関として率先して医療費適正化を推進するとともに、教育・研究・診療を安定的に提供するための持続可能な経営基盤を確立
（参考　評価実績）
<table><tr><td>R１</td><td>R２</td><td>R３</td><td>R４</td></tr><tr><td>B</td><td>A</td><td>A</td><td>A</td></tr></table></td><td>A</td></tr>
<tr><td>20</td><td>働き方改革の推進</td><td>・「働いて良し」を実現するために、働き方改革を推進し、人を引きつける魅力ある職場づくりを推進
・障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会の実現を目指して、障害のある人が、自分の能力が発揮できる仕事に就くことができ、安心して働き続けることができる組織の確立
（参考　評価実績）
<table><tr><td>R１</td><td>R２</td><td>R３</td><td>R４</td></tr><tr><td>A</td><td>S</td><td>A</td><td>A</td></tr></table></td><td>A</td></tr>
<tr><td>21</td><td>医療人としての人材育成</td><td>・法人の全教職員を医療人と考え、知識・技能はもとより豊かな人間性を重視した「良き医療人」を体系的・統一的かつ生涯にわたり教育を実施
・法人職員の統計リテラシー醸成を図り、法人の各種データの収集・分析、改善策の提案を行うことによって、安定的な運営基盤を確立
（参考　評価実績）
<table><tr><td>R１</td><td>R２</td><td>R３</td><td>R４</td></tr><tr><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
</table>

評価できる取組

価値目標 18

「ガバナンス体制の確立」

中期計画

「理事長のリーダーシップの下、コンプライアンスの徹底と内部統制システムを整備することにより、ガバナンス体制を充実・強化」

第３期中期目標期間の取組（実績及び見込みを記載）

◇ 効果的な情報発信に向け、法人ホームページや各種広報誌の内容充実を図るとともに、記者会見の実施、特設サイトの公開、新聞等への広告掲載、イメージキャラクターを用いた広報等を展開。

価値目標 19

「医療費適正化の推進とそれを支える費用構造改革の徹底による持続可能な経営基盤の確立」

中期計画

「収入の確保と経費の抑制を図ることで、持続可能な安定した経営基盤を確立し、あわせて、医療費適正化に向けた取り組みを推進」

第３期中期目標期間の取組（実績及び見込みを記載）

◇ 各年度の予算・決算・財務状況について、学報や動画説明等を通じて法人内に周知。

◇ 硬直化している委託費を見直すため、高額委託契約を対象に、経費削減支援業者の支援により、ベンチマーク比較などの分析に基づいた価格交渉を行い、委託経費を縮減。

◇ 予算執行にあたり、事業内容・委託内容等について、前年度からの見直しを徹底し、経費を縮減。

◇ 今後、継続して財務分析を行い、適宜、法人内へ情報提供するとともに、予算執行管理の強化及び次年度予算の適正な編成に活用する。

◇継続的な寄附及び新規寄附者獲得のため、寄附金を活用した取組や実績等の情報発信を行うなど寄附申込のきっかけを増やす取組を実施。また、未来への飛躍基金の目的や活用事業の紹介等を掲載したパンフレットを医大新入生の保護者、同窓会員へ送付。加えて、附属病院及び南奈良総合医療センターにパンフレットを設置するとともに、県民手帳へ広告掲載。

◇ 寄附に対する顕彰制度として、学報及び法人ホームページへの寄附者芳名の掲載、寄附者銘板の更新、紺綬褒章の伝達式を実施。

◇ 教職員からの寄附獲得に向けた機運の醸成を図るため、学内会議及び一斉メールで周知や働きかけを行うとともに、教育・研究活動等充実助成事業を実施。

◇ 入院診療対策プロジェクトにおいて、設定された病床稼働率を維持することを目標に、隔月で行う病棟医長・師長会議において、情報共有を行い、効率的に病床を運用。

◇ 手術対策プロジェクトにおいて、稼働制限に対応した手術件数の維持（年間 7,020 件、平均 75％稼働で想定）を目標に、中央手術部連絡委員会において、情報共有を行い、制限された予定手術枠の中で効率的に運用。

◇ 保険診療担当プロジェクトにおいて、適切なＤＰＣコーディングや保険請求などを推進。

◇ 医薬材料対策プロジェクトにおいて病院経営の健全化を図るため、医薬診療材料のコストを削減。

◇ 附属病院の重点課題毎にプロジェクトを編成し、プロジェクト毎の目標を定め、各種会議において進捗状況の確認及び収支バランスの取れた経営を進めるための検討を行い、対策を実施。

◇ 今後、病院経営・運営会議及び病院運営協議会において、経営指標や四半期分析等の情報を共有し、経営課題の意見交換及び検討を実施。また附属病院長が各診療科部長等と面談し、現場における課題を抽出するとともに病院方針を徹底。

価値目標 20
「働き方改革の推進」
中期計画
「全教職員が働きやすい魅力ある職場環境づくりに向けた働き方改革を推進し、職員満足度を向上」

第３期中期目標期間の取組（実績及び見込みを記載）

◇ 令和４年度より配偶者出産時の休暇と育児休暇の取得対象を全職員とし、出産関連の手当を申請する職員に制度を周知。
◇ 今後、男性の育休取得率向上を目指し、取得しやすい環境づくり、雰囲気の醸成に努める。
◇ 看護師の在職率の維持を目指し、看護職ＷＧにおいて、始業前超勤の縮減や一部病棟における障害者雇用職員へのタスクシフト（ベッドメイク）、看護補助者への研修を実施。
◇ 今後、更なるタスクシフトなどによる看護師の業務負担の軽減を図り、働きやすい職場環境を整備。
◇ スムーズな復職を支援するために、復職審査会を開催。当審査会において各個人に合わせた復職プランを作成するとともに、復帰後におけるフォローアップを実施。今後、心の病による長期休職者に対し、復職支援を行うとともに、職員がメンタルヘルスについて理解を深める取組を実施。

（参考）【実現目標の実績について】　※数値目標のみ抜粋

19．医療費適正化の推進とそれを支える費用構造改革の徹底による持続可能な経営基盤の確立

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
繰越欠損金の縮減	目標	中期予算以上の収支改善を図る					H29 実績より縮減
	（参考）※	2，776 百万円	2，904 百万円	2，889 百万円	2，866 百万円	2，539 百万円	2，271 百万円
	実績	3，002 百万円	2，074 百万円	△359 百万円	△1，347 百万円	△728 百万円（医大見込）	109 百万円（医大見込）

※第３期期間中累計の繰越欠損金目標額

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
未来への飛躍基金寄附実績（累計）の増加	目標	7億円	7．6億円	8．2億円	8．8億円	9．4億円	10億円
	実績	8．8 億円	9．7 億円	10．5 億円	11．9 億円	12．9 億円（医大見込）	13．9億円（医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
院内処方の影響を除いた医業収益に対する医薬品比率、診療材料費比率の維持	目標（医薬品）	公立医科系大学最低を維持	公立医科系大学最低を維持	公立医科系大学最低を維持	公立医科系大学最低を維持	公立医科系大学最低を維持	公立医科系大学最低を維持
	実績	23．4%（最下位）	24．1%（最下位）	26．8%（下位2位）	27．0%（下位3位）	公立医科系大学最低を維持（医大見込）	公立医科系大学最低を維持（医大見込）
	目標（診療材料費）	公立医科系大学最低を維持	公立医科系大学最低を維持	公立医科系大学最低を維持	公立医科系大学最低を維持	公立医科系大学最低を維持	公立医科系大学最低を維持
	実績	37．1%（最下位）	38．3%（最下位）	40．9%（下位2位）	41．7%（下位2位）	公立医科系大学最低を維持（医大見込）	公立医科系大学最低を維持（医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
院内処方の影響を除いた医業収益に対する労務系委託費＋給与費合計比率の抑制	目標	公立医科系大学の平均以下（50．0%）	公立医科系大学の平均以下（48．6%）	公立医科系大学の平均以下（48．2%）	公立医科系大学の平均以下（52．2%）	公立医科系大学の平均以下	公立医科系大学の平均以下
	実績	51．1%	50．2%	48．0%	54．6%	公立医科系大学の平均以下（医大見込）	公立医科系大学の平均以下（医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
後発医薬品の使用割合（数量ベース）の増加	目標	60%	70%	80%	80%以上	80%以上	80%以上
	実績	57%	71%	77%	80%	80%以上（医大見込）	80%以上（医大見込）

20．働き方改革の推進

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
教職員を対象とする「ワークライフバランスに関するアンケート」の項目における満足度の向上	目標	満足度調査	対前年度比＋1%	対前年度比＋1%	対前年度比＋1%	対前年度比＋1%	対前年度比＋1%
	実績	満足度調査実施（2月）	対前年度比＋6．5%（満足＋やや満足 42.1%）	対前年度比△2．0%（満足＋やや満足 40.1%）	対前年度比＋0．3%（満足＋やや満足 40.4%）	対前年度比＋0．3%（満足＋やや満足 41.4%）（医大見込）	対前年度比＋1．0%（満足＋やや満足 42.4%）（医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
休暇取得日数の増加	目標	5．0日	5．5日	6．0日	6．5日	7．0日	7．5日
	実績	6．4日	7．8日	8．2日	8．4日	8．6日（医大見込）	8．8日（医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度（目標）
男性の育休取得率の増加	目標	5%	6%	7%	8%	10%	13%
	実績	5．7%	13．9%	13．6%	26．6%	28．6%（医大見込）	31．6%（医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度 （目標）
超過勤務の縮減	目標	職種別1人当たり対前年度超過勤務時間数△1．0%	職種別1人当たり対前年度超過勤務時間数△1．0%	職種別1人当たり対前年度超過勤務時間数△1．0%	職種別1人当たり対前年度超過勤務時間数△1．0%	職種別1人当たり対前年度超過勤務時間数△1．0%	職種別1人当たり対前年度超過勤務時間数△1．0%
	実績 （看護職）	対前年度△0．4% （103.5時間）	対前年度△15．9% （87.1時間）	対前年度＋16．8% （101.7時間）	対前年度＋3．9% （105.7時間）	対前年度△1．0% （104.6時間） （医大見込）	対前年度△1．0% （103.6時間） （医大見込）
	実績 （医療技術職）	対前年度△1．6% （175.9時間）	対前年度△20．9% （139.2時間）	対前年度＋2．8% （143.1時間）	対前年度＋3．9% （148.7時間）	対前年度△1．0% （147.2時間） （医大見込）	対前年度△1．0% （145．7時間） （医大見込）
	実績 （事務職）	対前年度＋19．3% （223.5時間）	対前年度△10．2% （200.7時間）	対前年度△12．9% （174.8時間）	対前年度△17．8% （143.7時間）	対前年度△1．0% （142.2時間） （医大見込）	対前年度△1．0% （140.8時間） （医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度 （目標）
女性医師数（週5日勤務）の増加	目標	125人	128人	131人	134人	137人	140人
	実績	128人	134人	135人	145人	150人 （医大見込）	155人 （医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度 （目標）
看護師の在職率の維持	目標	全国平均離職率の△1%	全国平均離職率の△1%	全国平均離職率の△1%	全国平均離職率の△1%	全国平均離職率の△1%	全国平均離職率の△1%
	実績	全国平均離職率の△2% （法人の離職率 8．7% 全国平均 10．7%）	全国平均離職率の△4．2% （法人の離職率 7．3% 全国平均 11．5%）	全国平均離職率の△3．0% （法人の離職率 7．6% 全国平均 10．6%）	全国平均離職率の△3．3% （法人の離職率 8．3% 全国平均 11．6%）	全国平均離職率の△2．9% （法人の離職率 7．7% 全国平均 10．6% （医大見込））	全国平均離職率の△2．9% （法人の離職率 7．7% 全国平均 10．6% （医大見込））
本項目については、項目名を「看護師の在職率の維持」としているが、実績は「離職率」を採用している。							

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度 （目標）
復職支援カリキュラムの満足度の向上	目標	60%					
	実績	75% （9／12）	71% （15／21）	74% （14／19）	100% （13／13）	79% （医大見込）	79% （医大見込）

項目	年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度 （目標）
障害者雇用率の向上	目標	２．77％	２．78％	２．79％	２．80％	２．81％	２．82％
	実績	３．28％	３．21％	３．22％	３．12％	３．18％ （医大見込）	３．18％ （医大見込）

奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会　委員名簿

氏名	役職等
◎垣内　喜代三	国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学　名誉教授
竹田　幸博	地方独立行政法人埼玉県立病院機構　理事
任　和子	国立大学法人京都大学大学院医学研究科　生活習慣病看護学分野　教授
町田　泰昭	町田社会保険労務士事務所　代表
松村　泰志	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター　院長

（五十音順　敬称略　◎は委員長）